

第3回大分県鳥獣被害対策本部会議

日時：平成24年3月28日 13:30～
場所：大分県庁 新館14階 「大会議室」

次 第

- 1 開会
- 2 本部長あいさつ
- 3 会議事項
 - (1) 平成23年度の取組(実績)について
 - ①集落環境対策(重点集落)について
 - ②捕獲対策について
 - ③予防対策について
 - (2) 特定鳥獣保護管理計画について
 - ①ニホンジカ
 - ②イノシシ
 - (3) 平成24年度の取組について
今後の進め方(案)
 - (4) その他
 - ①大分県のアライグマ対策について

別紙

4 閉会

※参考資料

- ・ 罠いワナによるニホンジカの捕獲に関する研究
- ・ 自力施工による防護柵設置の「カイゼン」について

H23年度鳥獣被害対策本部等の主な取組状況

8月

- 1日 「大分県鳥獣被害対策本部」の設置及び第1回会議の開催(県庁)
- 6, 7, 20, 21, 28日 初心者狩猟免許講習会(5振興局)
- 6, 7日 狩猟免許試験(6振興局)
- 9~30日 「現地対策本部」の設置(各振興局単位)及び会議を開催
- 下旬 現地対策本部毎に戦う集落(重点地区)及び担当者を選定
東部局(4), 中部局(2), 南部局(2), 豊肥局(2), 西部局(4), 北部局(合計 17地区)
- 26日 ① 副知事視察: 戦う集落「佐伯市大越地区」

9月

- 戦う集落(重点地区)毎に、行動支援計画を作成
集落対策PTによる現地調査(集落点検)
- 現地での集落研修会、市町単位でのわな講習会等を実施
①集落研修会(南部局《佐伯市大越》、西部局《日田市熊ノ尾、九重町中須》)
②わな講習会等(東部局《日出町、国東市》)
- 15日 近隣市町村との広域対策会議の開催(南部局主催)
広域一斉捕獲実施の協議と被害状況等の情報交換
宮崎県(県・1市1町)と大分県(森共、南部・中部・豊肥局、臼杵市、津久見市、佐伯市、豊後大野市)
- 11日 狩猟免許試験(6振興局)
- 16日 アリソンホテル(大分市:旧ワシントンホテル)でジビエ料理の提供始まる
② 副知事視察: 戦う集落「杵築市大鴨川地区」
- 17~19日 狩猟免許初心者講習会(大分市)

10月

- 3日 対策本部幹事会を開催 各局の取組状況を周知。今後の進め方を打合せ
- 15, 16日 狩猟免許試験(県庁)
- 16日 県内一斉捕獲を実施(捕獲班132班、951人の猟友会員が参加)
イノシシ 78頭、シカ 159頭、計237頭を捕獲
- 22~23日 県農林水産祭でジビエ料理販売や有害鳥獣対策資材等を展示
①「燻家」 ②「みやもと」 ③「猪鹿」
- 中旬 ジビエ加工品の販売チラシ展開
県職員生協でイノシシ・シカの生肉、ハム・ウインナー風加工品の斡旋・販売
- 25~26 県職員生協フェア(正庁ホール)でジビエの試食・販売
- 現地対策本部毎にわな免許新規取得者対象の現地研修会を開催

11月

- 1日 イノシシ・シカ狩猟解禁(~3月15日)
- 7日 第2回対策本部会議の開催
- 10日 鳥獣害対策アドバイザー研修の開催(九重町)
③ 副知事視察: 戦う集落「九重町中須地区」

12月

- 8日 ④ 副知事視察：戦う集落「豊後大野市北平地区」
- ★ 22日(金) 特定鳥獣保護管理計画等パブコメ開始（～1月22日まで）
- 28日(水) NHK朝のニュースでジビエ紹介（「煮込みや かんたろう」県庁横）
県職生協とのタイアップで「煮込みや かんたろう」でジビエ料理提供

1月

- 10日(火) 鳥獣行政担当者会議（森共・振興局担当者）
- 16日(月) ⑤⑥ 副知事視察：戦う集落「宇佐市宮原地区」「別府市天間地区」
北部地域現地対策本部で鳥獣被害対策検討会を開催
- 17日(火) ⑦⑧ 副知事視察：戦う集落「大分市野津原町上詰・堪水地区」
- 20日(金) 副知事と猟友会役員との意見交換会（県庁）
- 23日(月)～27日 農林1課会計実地検査（鳥獣被害防止総合対策交付金事業該当）
- 27日(金) わな初心者対象の捕獲・解体研修(32名参加、山香町、講師；山香アグリ)
- 23日、24日、31日 ⑨ 副知事視察：戦う集落「日出町中山地区」
佐伯小学校でシカ肉を給食で提供(テレビ・新聞で放映)
(23日：シカのしぐれ煮 24日：イノシシ汁 31日：すき焼き)
- 30日(月) 鳥獣被害防止総合対策交付金事業説明会（県庁）
九州農政局佐土原課長補佐を招いて市町の担当者へ説明

2月

- 7日(火) ⑩ 副知事視察：戦う集落「玖珠町長小野地区」
- 17日(金) 副知事講演（一部鳥獣害対策）＊九州農政局生産部長重点集落等視察
県議会議長と市町村議長との意見交換で講演
- 21日(火) ⑪ 副知事視察：戦う集落「豊後高田市畑地区」
- 23日(木) 佐伯地区シカ・イノシシ対策研修会（講演 兵庫県立大学特任教授 阿部 豪）
- 24日(木) ⑫⑬ 副知事視察：戦う集落「日田市熊ノ尾地区」「本城地区」
- 28日(火) ⑭ 副知事視察：戦う集落「国東市国見町畑地区」
九州森林環境シンポジウム開催（副知事、足立審議監他関係者 出席）
～増えすぎたシカの危機を考える～（佐伯文化会館：200人）
（大分県発表者 高宮鳥獣害対策専門員、佐伯市猟友会長 柳井会長）

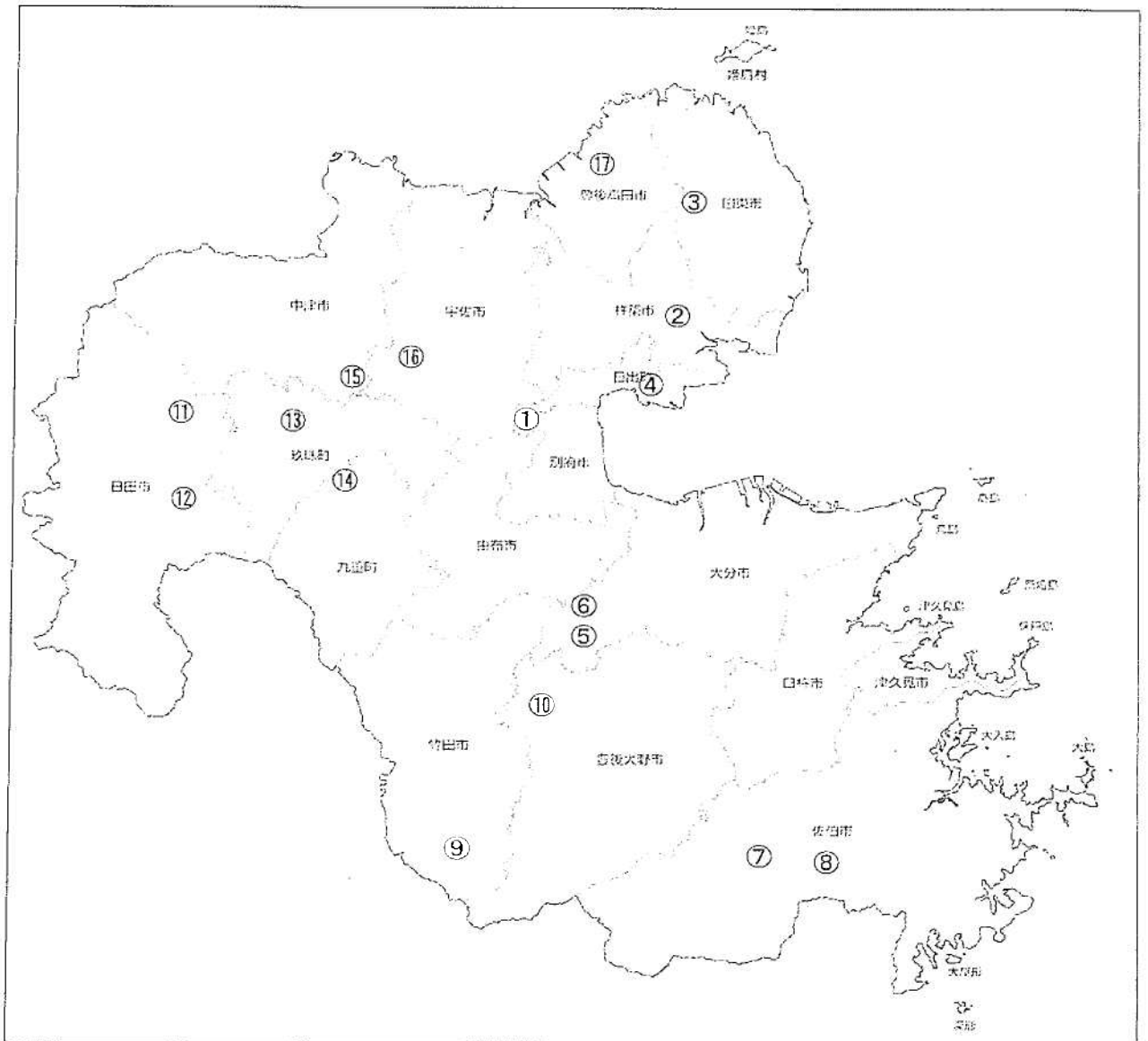
3月

- 1日(木) ⑮ 副知事視察：戦う集落「佐伯市直川（横川）地区」
- 2日(金) 環境審議会鳥獣部会（特定鳥獣（ニホンジカ）保護管理計画案等の審議）
- 13日(月) 第2回西部地域現地対策本部会議を開催
- 14日(水) 第2回北部地域現地対策本部会議を開催
- 15日(木) 第2回南部地域現地対策本部会議を開催
- 16日(金) ⑯ 副知事視察：戦う集落「中津市上深水（小川内）地区」
- 22日(木) 第2回東部地域現地対策本部会議を開催
- 23日(金) ⑰ 副知事視察：戦う集落「竹田市中角地区」
- 25日(日) 第2回 県下一斉捕獲
- 28日(水) 第3回 対策本部会議(県庁)

① 集落環境対策

○ 大分県鳥獣被害現地対策本部選定重点地区一覧

局	番号	重点地区名	戸数	局	番号	重点地区名	戸数
東部	①	別府市 ^{あほな} 天間地区	52	豊肥	⑨	竹田市 ^{なかつの} 中角地区	16
	②	杵築市 ^{おろちがわ} 大鴨川地区	24		⑩	豊後大野市朝地町北平地区	37
	③	国東市国見町 ^{ほな} 畑地区	10	西部	⑪	日田市熊ノ尾地区	20
	④	日出町中山地区	14		⑫	日田市天瀬町本城地区	10
中部	⑤	大分市野津原町 ^{かみづめ} 上詰地区	42		⑬	玖珠町長小野地区	18
	⑥	大分市野津原町 ^{たまりみず} 湊水地区	22		⑭	九重町中須地区	14
南部	⑦	佐伯市直川 ^{よこがわおびつる} 横川 ^{つる} 天津留地区	12	北部	⑮	中津市三光 ^{かみふくこうすおごころ} 上深水小川内地	27
	⑧	佐伯市 ^{おろち} 大越地区	27		⑯	宇佐市院内町宮原地区	13
					⑰	豊後高田市 ^{ほな} 畑地区	31



鳥獣被害現地対策本部選定重点地区活動実績

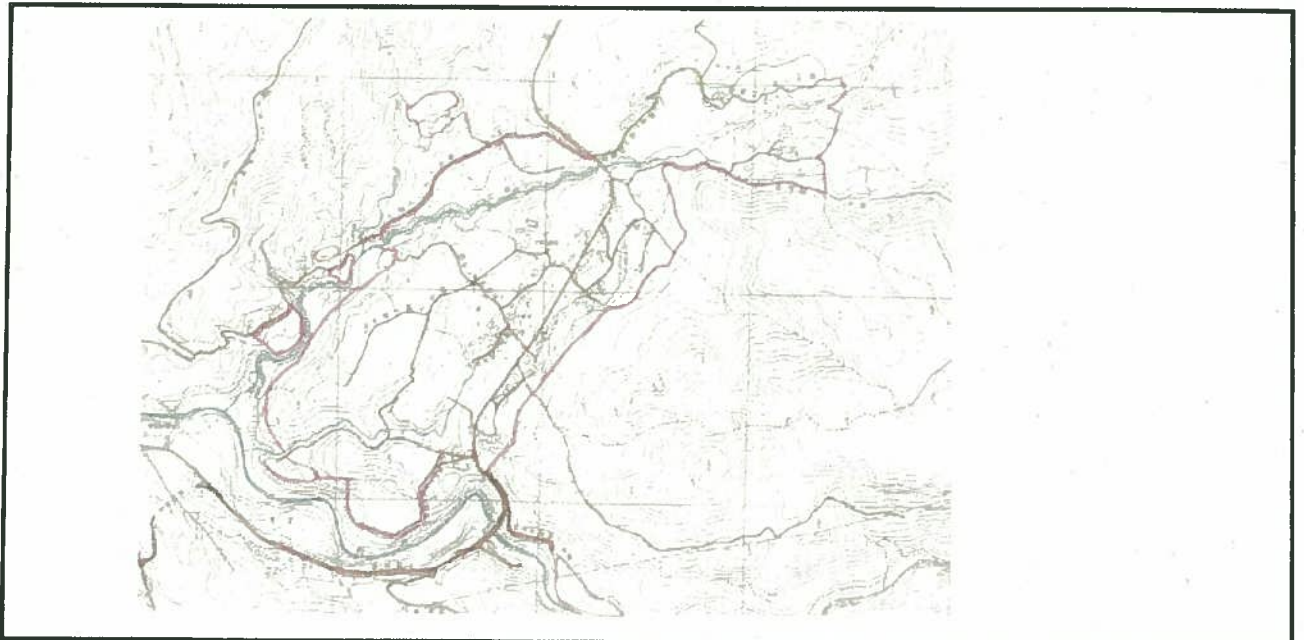
①別府市天間	加害獣	イノシシ	戸数	農家戸数	耕地面積	作目	
			52	42	23ha	米	
			集落営農	狩猟者	環境対策	被害の推移	柵設置
			無	1	○	減	有
			予防対策				
<ul style="list-style-type: none"> ・H18中山間地域等直接支払交付金(金網柵7,500m) ・H18中自ら取り組む鳥獣被害対策事業(金網柵1,000m) ・H23中山間地域等直接支払交付金(金網柵1,500m) 							
捕獲対策							
<ul style="list-style-type: none"> ・狩猟免許取得者(わな、銃)1名 							
集落環境対策							
<ul style="list-style-type: none"> ・ヤブの刈り払い 							



実 績	
9月21日	<u>第1回PT現地調査</u> <ul style="list-style-type: none"> ・「重点地区」の内容説明 ・過去の取組みについて聞き取り ・市+県+住民で金網柵の設置状況見回り
12月5日	<u>第2回PT現地調査</u> <ul style="list-style-type: none"> ・イノシシの生態等をビデオで学習 ・被害対策について打合せ
12月27日	<u>第3回PT現地調査</u> <ul style="list-style-type: none"> ・市+県+住民で金網柵の設置状況見回り ・イノシシの侵入箇所を確認し、今後の補修について協議 ・金網柵下部の折り返し部分をコンクリートで補強し、イノシシの侵入を防いでいた

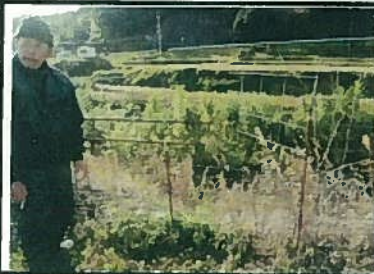
集落住民の声

- ・河川敷に防護柵を施工し、また、農道をゲートにより侵入遮断したことで被害が減った。
- ・「地域ぐるみでイノシシやシカから農作物を守ろう」という意識があり、今後とも地域が一体となり、修繕や改善を行っていきたい。



鳥獣被害現地対策本部選定重点地区活動実績

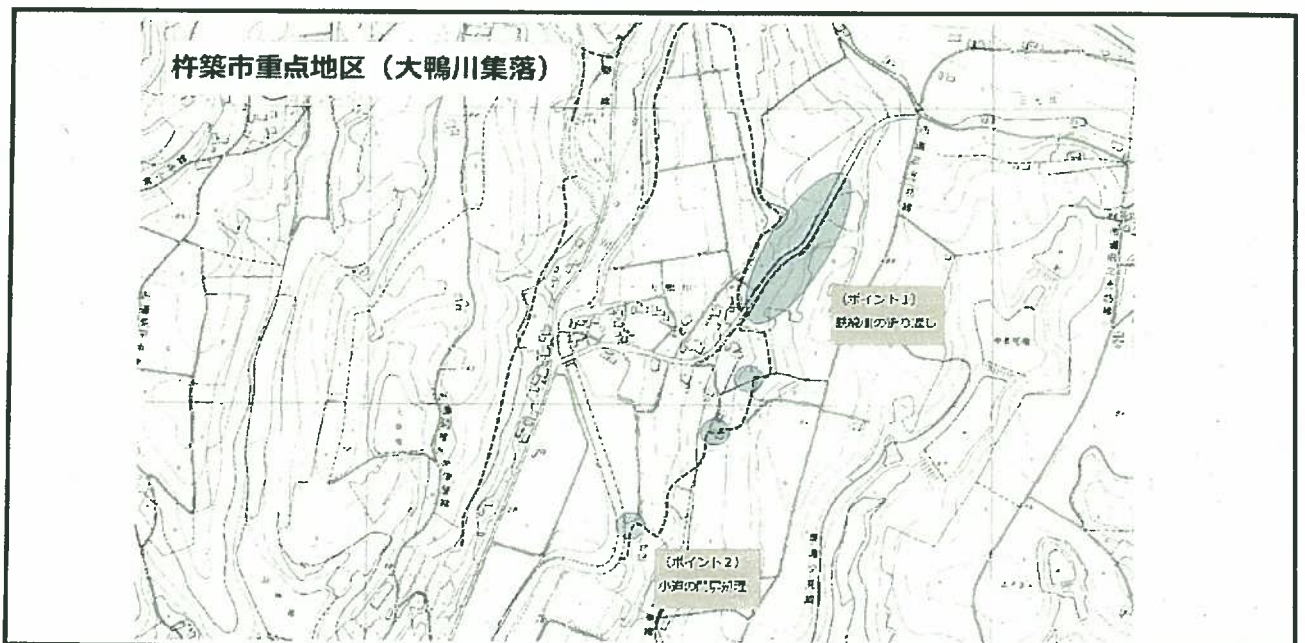
②杵築市大鴨川	加害獣	イノシシ	戸数	農家戸数	耕地面積	作目	
			24	24	12ha	米	
			集落営農	狩猟者	環境対策	被害の推移	柵設置
			無	1	○	減	有
			予防対策				
捕獲対策					・狩猟免許取得者(わな)1名		
集落環境対策					・ヤブの刈り払い		



実 績	
9月1日	第1回PT現地調査 ・「重点地区」の内容説明 ・被害対策について聞き取り ・市+県+住民でワイヤメッシュ柵の設置状況見回り ・ワイヤメッシュ柵の折り返し施工の工夫に取り組んでいた
9月16日	小風副知事視察 ・鳥獣害対策について、現地調査及び意見交換
12月26日	第2回PT現地調査 ・市+県+住民でワイヤメッシュ柵の設置状況見回り



集落住民の声

・防護柵の周囲を刈り払うことや、ワイヤメッシュ柵の折り返し施工の工夫に取り組むことにより、被害防止が図られた。



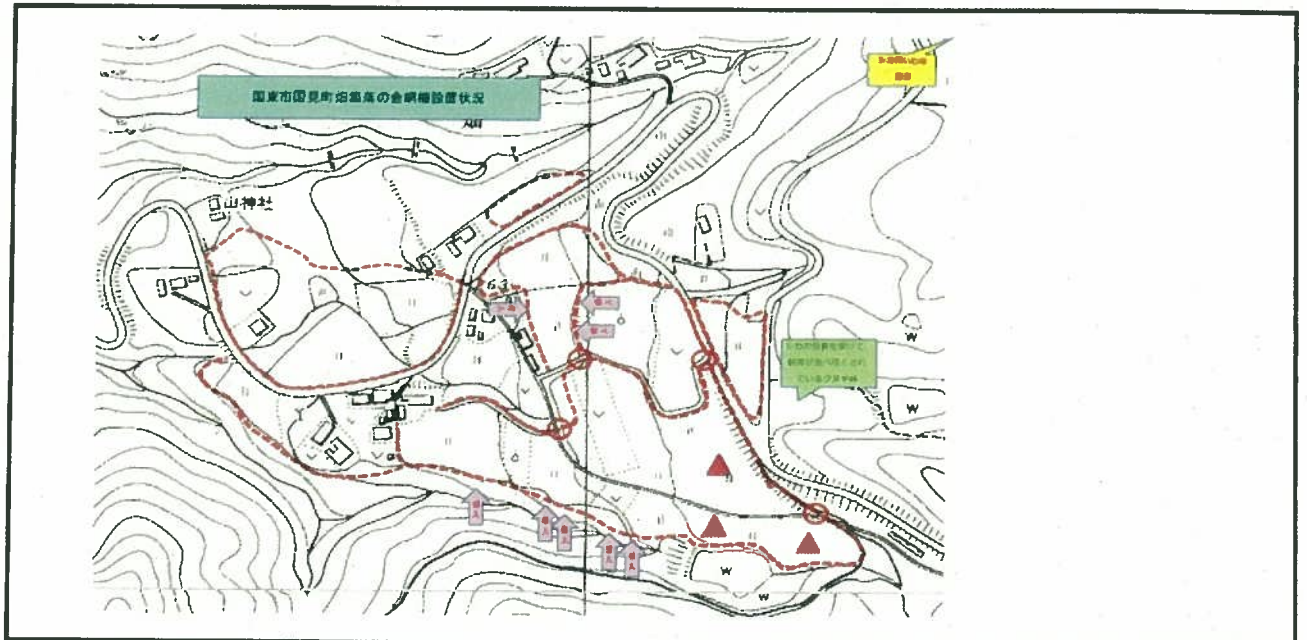
鳥獣被害現地対策本部選定重点地区活動実績

③国東市国見町畑 	加害獣	イノシシ・シカ	戸数	農家戸数	耕地面積	作目	
			10	2戸(専業)	4ha	水稻、カボス、椎茸	
	集落営農	狩猟者	環境対策	被害の推移	柵設置		
	有	2名	○	(減)	有		
	予防対策		・H23鳥獣被害防止総合対策事業(金網柵2,700m)				
捕獲対策		・シカ囲いわなの試験的設置(シカ4頭捕獲) ・H23年度に、1名が新たにわな免許を取得し、くくりわなでイノシシ・シカ捕獲(捕獲実績 頭)					
集落環境対策		・ヤブの刈り払い					

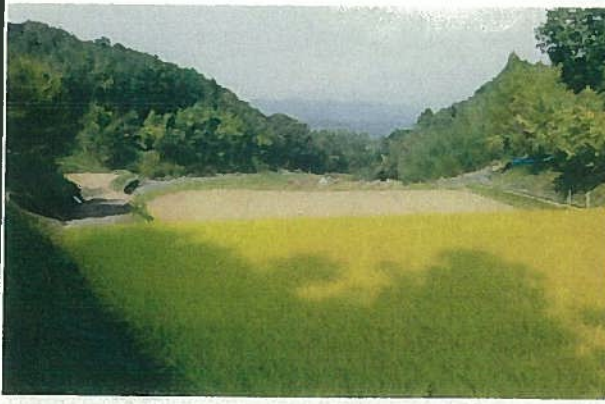
 	実 績	
	9月12日	第1回PT現地調査 ・イノシシ・シカの生態等をビデオで学習 ・水田の見回り(早期米はイノシシ被害大)
	10月 4日	金網柵設置作業状況調査(協同作業) ・ミニバックフォーで穴開け→支柱を設置→穴の隙間に小石詰める→網張り→網下のペグ止め
	12月14日	第2回PT現地調査 ・市+県+住民で3班に分かれて金網設置状況見回り ・イノシシ・シカの侵入箇所……8箇所 ・侵入されそうな箇所……30箇所 ※住民は侵入されていることに驚く
2月13日	第3回PT現地調査 ・第2回PTで見つかった侵入箇所を、地元は完全に修復していた。 ・イノシシ・シカの習性を森共木村主幹説明	

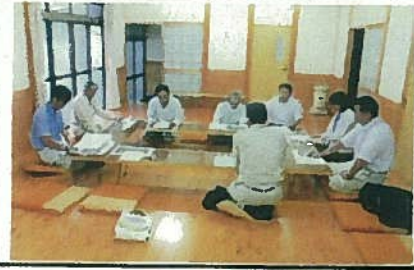

集落住民の声

- ・自分は田を借りて稲を作っているが、畑集落のようにイノシシ・シカ対策ができていない所は作りやすい。
- ・金網柵や鉄線柵を田から離れた所に張っているケースがある(このようなところでは、イノシシ・シカの被害が多い)が、赤根では、点検しやすいように田の周囲に張っている。



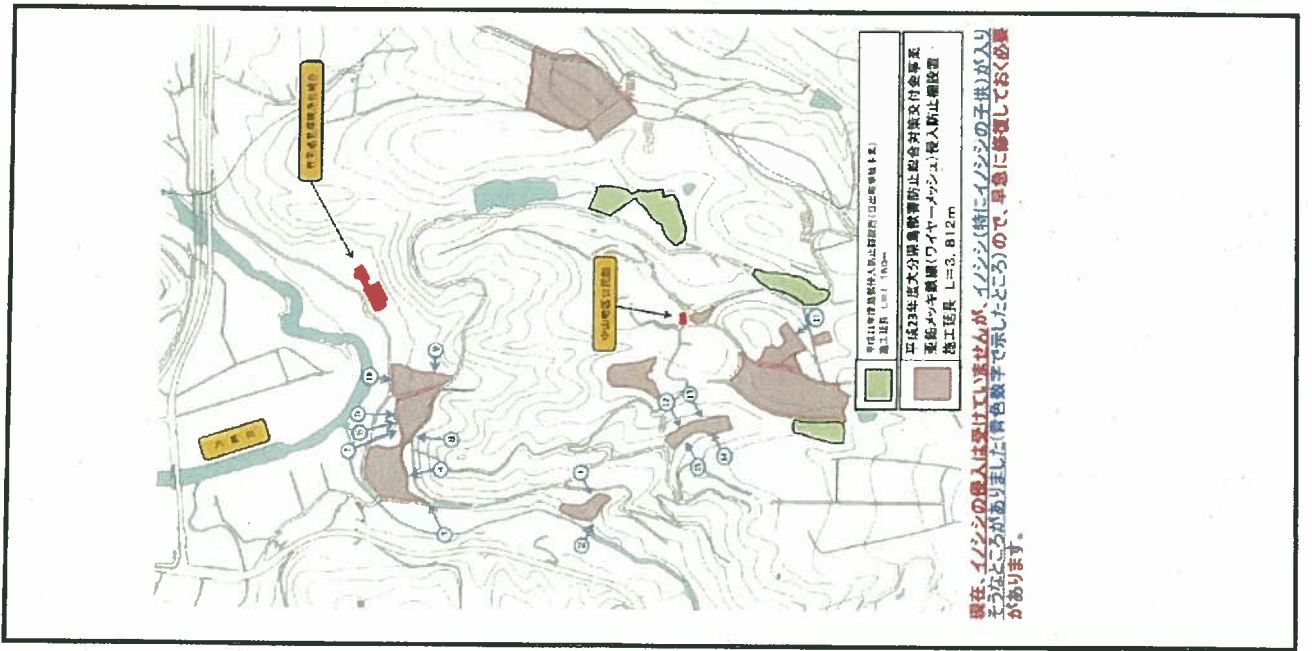
鳥獣被害現地対策本部選定重点地区活動実績

④ 日出町中山	加害獣	イノシシ	戸数	農家戸数	耕地面積	作目	
			14	10	15ha	水稻、ミカン、ギンナン	
			集落営農 無	狩猟者 3名	環境対策 ○	被害の推移 (減)	柵設置 有
			予防対策				
			・H21イノシシ被害防止集落対策事業(町単独、金網1, 160m) ・H23鳥獣被害防止総合対策事業(鉄線柵3, 812m)				
			捕獲対策				
			・H22年度に、1名が新たにわな免許を取得				
			集落環境対策				
・ヤブの刈り払い							

	PT第1回	実 績	
		9月20日	第1回PT現地説明 ・過去の取組みの聞き取り ・「重点地区」の内容説明
		11月	個人毎に金網柵を設置
		12月15日	第2回PT現地調査 ・市+県で2班に分かれて金網設置 状況見回り ・イノシシ・シカの侵入箇所……………0箇所 ・侵入されそうな箇所……………15箇所
	PT第2回	1月27日	小風副知事視察 ・第2回PTで見つかった侵入危険箇所を、既に補修している方がいた。

集落住民の声

・金網柵設置の前に、森との共生推進室の高宮さんから、イノシシやシカの習性等についてずいぶん勉強させられた。また、地区住民も皆が勉強した。→金網柵、鉄線柵の地際の対策が良く取られている。



鳥獣被害現地対策本部選定重点地区活動実績

⑤大分市野津原町上詰 	加害獣	イノシシ	戸数	農家戸数	耕地面積	作目	
			44	29	16.5	米	
			集落営農有	狩猟者2	環境対策未実施	被害の推移	柵設置 H23
	予防対策 ・ワイヤーメッシュ柵、金網柵の設置(メッシュ柵8,445m 金網柵2,800m 大分県鳥獣被害防止総合対策交付金事業) ・柵の点検活動						
	捕獲対策 ・狩猟免許(わな)の取得に関する説明						

集落環境対策
 ・柵設置箇所周辺の刈り払い
 ・有害鳥獣に関する勉強会
 (イノシシの行動、野生鳥獣を寄せ付けない営農管理等)




実 績	
9/12	集落点検・柵設置予定箇所現況調査 (地区参加者8名、振興局等6名、市職員2名)
11/2	鳥獣被害対策研修会 (地区参加者19名、振興局等6名、市職員2名)
11/13	金網柵設置検討会 (地区参加者24名、振興局3名、市職員3名、業者5名)
11/19	ワイヤーメッシュ柵設置検討会 (地区参加者7名、振興局2名、業者2名)
12/22	柵設置状況調査 (地区参加者1名、振興局2名、市職員2名)
1/17	小風副知事重点地区視察 (地区参加者11名、副知事、振興局等6名、市職員3名)
2/3	柵張り応援隊(集落と振興局職員による柵設置) (地区参加者5名、振興局等8名)

集落住民の声
 ・集落を回って実際に電気柵の電圧を測ってみたところ漏電等により防護効果がなくなっているのに驚いた。
 ・集落住民が集まって、これからの被害防止について話し合うことによって、被害防止対策に取り組みに対して、前向きな意見が出るようになった。
 ・勉強会において、夜な夜な集落に出没するイノシシの映像を見て、被害防除の必要性を認識した。
 ・ワイヤーメッシュ柵、金網柵設置の始めのうちは、慣れない作業なのでだいぶ時間と手間がかかった。



凡例	
被害状況	
	食痕
	進入跡
その他	
	進入経路

鳥獣被害現地対策本部選定重点地区活動実績

⑥大分市野津原町湛水 	加害獣	イノシシ	戸数	農家戸数	耕地面積	作目
			22	17	18	米
	集落営農	狩猟者	環境対策	被害の推移	柵設置	
	無	2	未実施		H23	
	予防対策	・ワイヤーメッシュ柵の設置 (延長5,000m 大分県鳥獣被害防止総合対策交付金事業) ・柵の点検活動				
捕獲対策	・狩猟免許(わな)の取得に関する説明					
集落環境対策	・柵設置箇所周辺の刈り払い ・有害鳥獣に関する勉強会 (イノシシの行動、野生鳥獣を寄せ付けない営農管理等)					



実 績	
9/13	集落点検・柵設置予定箇所現況調査 (地区参加者3名、振興局等5名、市職員1名)
11/16	鳥獣被害対策研修会 (地区参加者15名、振興局等6名、市職員2名)
11/19	ワイヤーメッシュ柵設置検討会 (地区参加者6名、振興局2名、業者2名)
12/22	柵設置状況調査 (地区参加者3名、振興局2名、市職員2名)
1/17	小風副知事重点地区視察 (地区参加者5名、副知事、振興局等6名、市職員3名)
1/20	柵張り応援隊(集落と振興局職員による柵設置) (地区参加者4名、振興局6名)

集落住民の声

- ・集落内の被害地を点検することによって、イノシシがどのように進入するのかよくわかった。
- ・勉強会において暗視カメラに写る集落に進入するイノシシの行動をみて、今後の進入防護柵の設置について一層の必要性を確認した。
- ・ワイヤーメッシュ柵の設置を主要メンバーの3人で行っていたが、柵をはる姿をみて集落の住民が一緒に作業に参加するようになり、集落の結束が図られたように思う。



凡例	
被害状況	
	食痕
	進入跡
その他	
	進入経路

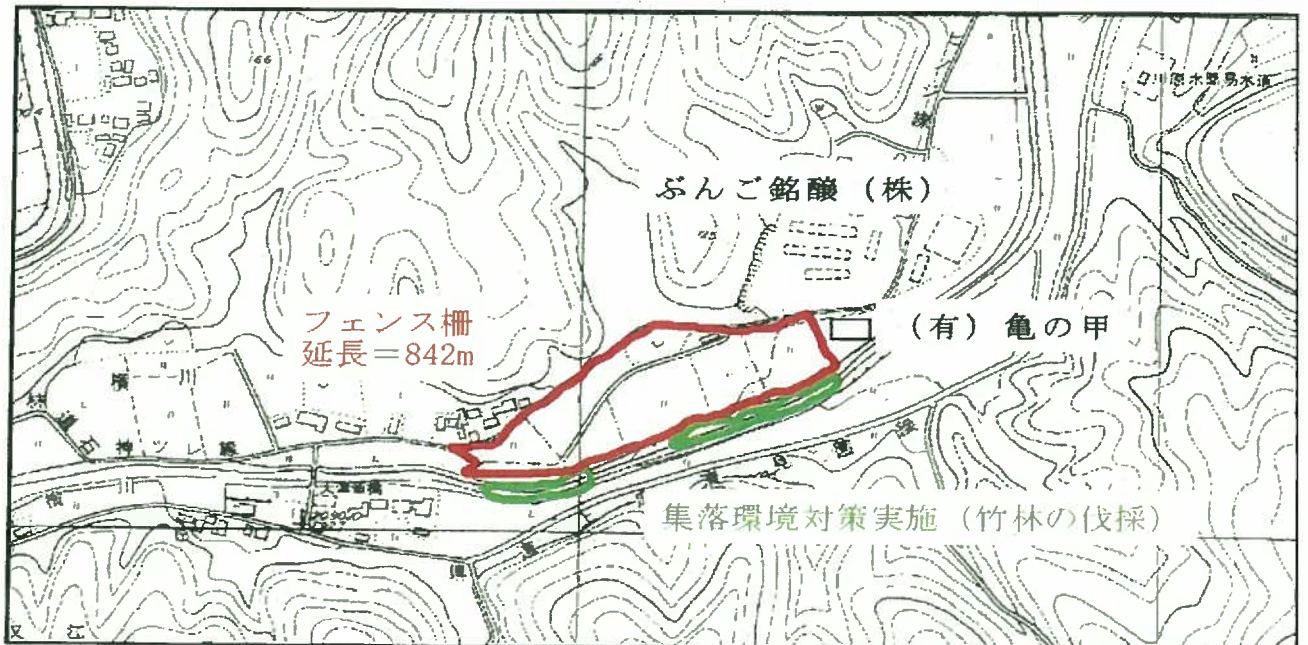
鳥獣被害現地対策本部選定重点地区活動実績

⑦佐伯市直川横川大津留 	加害獣	イノシシ・シカ・カラス・アナグマ・スズメ	戸数	農家戸数	耕地面積	作目	
			12	12	2.45	米、飼料作物、野菜	
	集落営農	狩猟者	環境対策	被害の推移	柵設置		
	無	有	未実施	増	H23		
	予防対策		・交付金事業によるフェンス柵の設置(842m) ・地元住民が管理組合を新たに結成し管理を行う。				
捕獲対策		・地元狩猟者と捕獲ボランティア隊で当地区の重点捕獲を実施。 H23年度イノシシ:28頭 H23年度シカ :137頭					
集落環境対策		・河川敷側の管理放棄竹林の伐竹。 ・河川護岸の雑木の伐採。					


	実 績	
	・平成23年11月25日	第1回集落会議開催 (8名参加)
	・平成24年3月下旬	第2回集落会議開催予定 (3名参加)
	・平成23年11月25日	第1回集落点検実施 (4名参加)
	・平成23年12月19日	第2回集落点検実施 (4名参加)
	・平成24年1月20日	第3回集落点検実施 (4名参加)
	・平成24年1月27日	フェンス柵設置研修会実施 (振興局職員参加16名)
	・平成24年2月29日	第4回集落点検実施 (3名参加)
	・平成24年3月24日	竹林の伐採(緩衝帯整備) (集落応援隊参加)

集落住民の声

- ・柵の設置については、地元の人間が少ないのと高齢化で作業は大変だったが小規模集落応援隊の手伝いもあり助かった。
- ・河川沿いの竹林については今まで管理していなかったが、今後は地区住民で管理していきたい。
- ・柵完成後も集落点検に来てほしい。



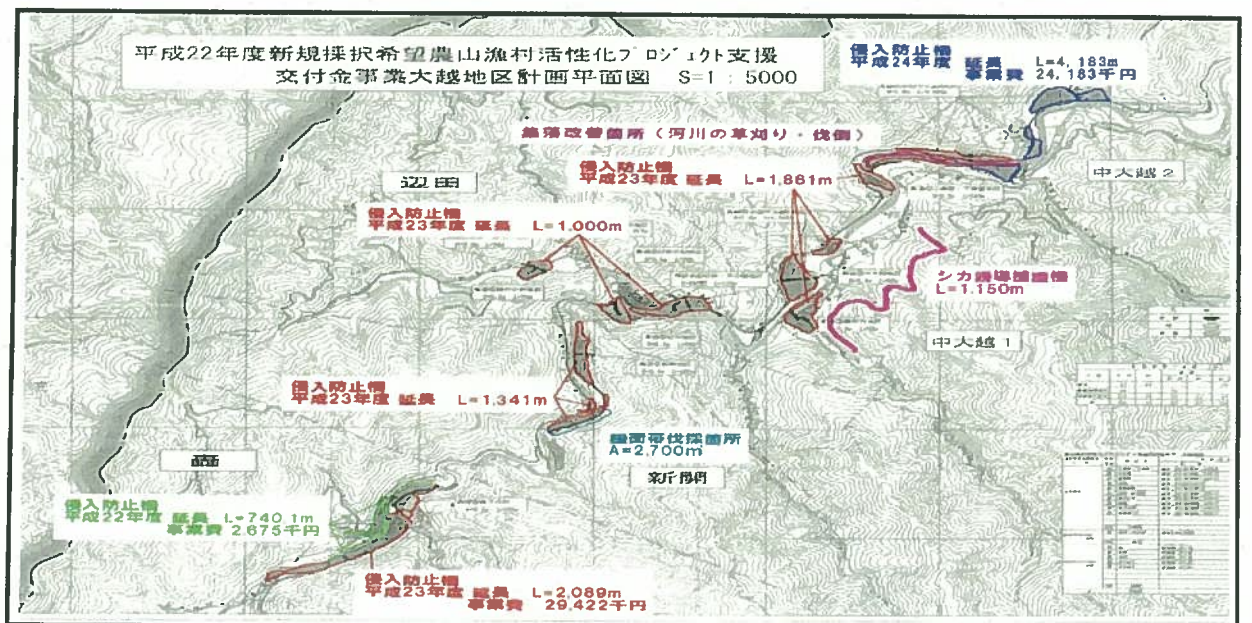
鳥獣被害現地対策本部選定重点地区活動実績

⑧佐伯市大越	加害獣 イノシシ・シカ・カラス・アナグマ・スズメ	戸数	農家戸数	耕地面積	作目	
		27	27	14	米、飼料作物、野菜	
		集落営農有	狩猟者有	環境対策実施	被害の推移	柵設置
					変化なし	H22～H24
	予防対策					
	・農山漁村活性化プロジェクト支援交付金事業によるフェンス柵の設置					
	・H22年度: 740m					
	・H23年度: 6,291m					
・H24年度: 4,183m						
捕獲対策						
・シカ誘導捕獲モデル事業に伴うくくりわなの設置。						
H23年度イノシシ: 28頭						
H23年度シカ : 137頭						
集落環境対策						
・地区内の耕作放棄地の草刈り。						
・河川護岸の雑木の伐採。						
・小規模集落応援隊との緩衝帯の草刈り。						


	実 績	
	平成23年9月29日	第1回集落会議開催 (28名参加)
	平成24年3月下旬	第2回集落会議開催予定
	平成23年9月29日	第1回集落点検実施 (8名参加)
	平成23年10月5日	第2回集落点検実施 (8名参加)
	平成23年11月17日	第3回集落点検実施 (11名参加)
	平成23年12月4日	河川護岸の雑木の伐採・放棄地の草刈りを実施。(11名参加)
	平成23年12月22日	第4回集落点検実施 (6名参加)
	平成24年1月13日	第5回集落点検実施 (7名参加)
	平成24年2月22日	第6回集落点検実施 (6名参加)
	平成24年3月17日～18日	緩衝帯の草刈り

集落住民の声

- ・集落環境改善に取り組む体制が整ったし、住民の自主的な動きがでてきたが、作業する人が少ないうちに、高齢化している。共有地は応援隊の手伝いで何とかできるが、個人所有の田畑の放棄地の草刈りとなると要請できないのでは？
- ・河川内の芦など草刈りを要望しているが、予算がないと言われる。地元で行いたい許可を取らないと出来ない。柔軟な対応が出来ないか？



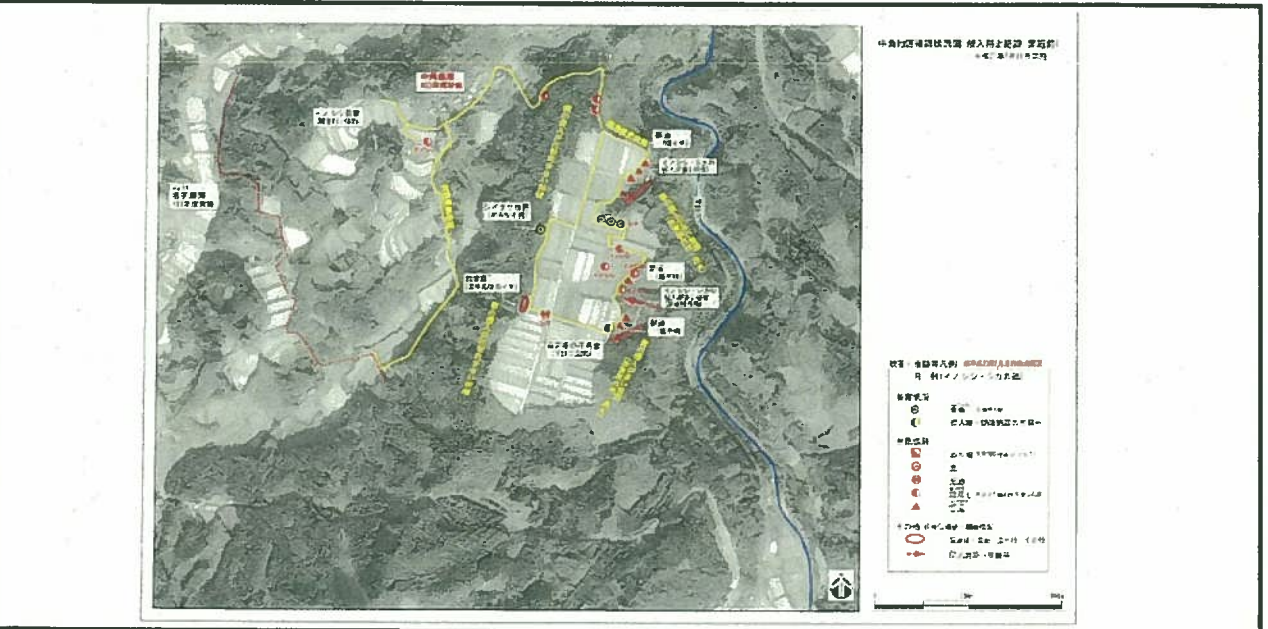
鳥獣被害現地対策本部選定重点地区活動実績

⑨竹田市中角	加害獣	イノシシ、シカ	戸数	農家戸数	耕地面積	作目	
			16	16	26.7	米、ピーマン	
	集落営農	狩猟者	環境対策	被害の推移	柵設置		
	無	4	実施	減少	H23		
	予防対策						
	鳥獣被害防止総合対策交付金によりイノシシ・シカ用の電気柵を集落全員で出役して設置した。その後、電圧不足の解消や地区内で意見交換を行っている。						
捕獲対策							
集落内の免許保有者で、電気柵外に箱わなとくりわなを設置して捕獲を行っている。							
集落環境対策							
勉強会を開催し、集落全体で鳥獣害の特性を確認した。柵の設置前・後に集落住民による藪の除去を定期的に行っている。							


	実 績	
	7月26日	柵設置個所事前調査 (現地対策本部、(株)九州自然環境研究所、集落代表) 電気柵を設置する箇所を中心に集落点検を行った。
	9月5日	柵設置現地検討会(電気柵の設置) (現地対策本部・集落住民) 集落関係者全員と電気柵を設置した。
	9月20日	柵設置後勉強会 (現地対策本部・集落住民) 柵の管理と集落環境対策についての勉強会を行った。
2月20日	現地検討会および座談会 (現地対策本部、広域普及員、集落住民) 現地での被害状況等の確認を行うとともに、集落全員で、来年の課題解決に向けての話し合いを行った。	

集落住民の声

- ・柵の延長が長いので最初は電圧が低くなることもあったが、きちんと草刈りなどの管理をすることで、高電圧を維持できるようになった。
- ・被害は去年より飛躍的に減った。
- ・イノシシの害はほぼゼロになったが、シカが侵入する箇所があるため、来年はその箇所を重点的に管理していきたい。



鳥獣被害現地対策本部選定重点地区活動実績

⑩豊後大野市北平	加害獣	イノシシ	戸数	農家戸数	耕地面積	作目
			37	30	13	米
	集落営農有	狩猟者無	環境対策実施	被害の推移	柵設置	H23
	予防対策					
	鳥獣被害防止総合対策交付金によりイノシシ・シカ用の被害の多い所を中心に金網柵を集落で設置した。					
捕獲対策						
集落住民による捕獲を検討中である。						
集落環境対策						
勉強会を開催し、集落全体の鳥獣害対策を確認した。柵の設置前の集落住民による草刈りを行った。また、ヤギの放牧により緩衝帯の設置を図った。						



実 績	
7月27日	柵設置箇所事前調査 (現地対策本部、集落住民) 防護柵を設置する箇所を中心に集落を調査。柵の管理と集落環境対策についての勉強会を行った。
9月	ヤギの放牧による緩衝帯の設置 (現地対策本部 (豊後大野市鳥獣害対策協議会)) 鳥獣被害防止総合対策交付金でヤギを放牧し防護柵設置予定箇所周辺の藪の除去を図った。
12~1月	防護柵の設置箇所の再検討 (集落住民) 防護柵の設置方法について再度協議を行った
1月	藪の刈り払いおよび防護柵の設置 (集落住民) 防護柵設置予定箇所周辺の藪の除去を行い鳥獣被害防止総合対策交付金により金網柵を集落住民で設置した。



集落住民の声

- ・柵の設置後の管理の重要性については、勉強会をしたことや以前から近隣の集落で柵を見ているため、よく理解できた。藪が多いため大変だが、今後ともきちんと管理していかなければならない。
- ・狩猟者が地区にいないため、捕獲については猟友会にお願いしなければならないが、自分たちで捕獲する必要もあるのではないかと。



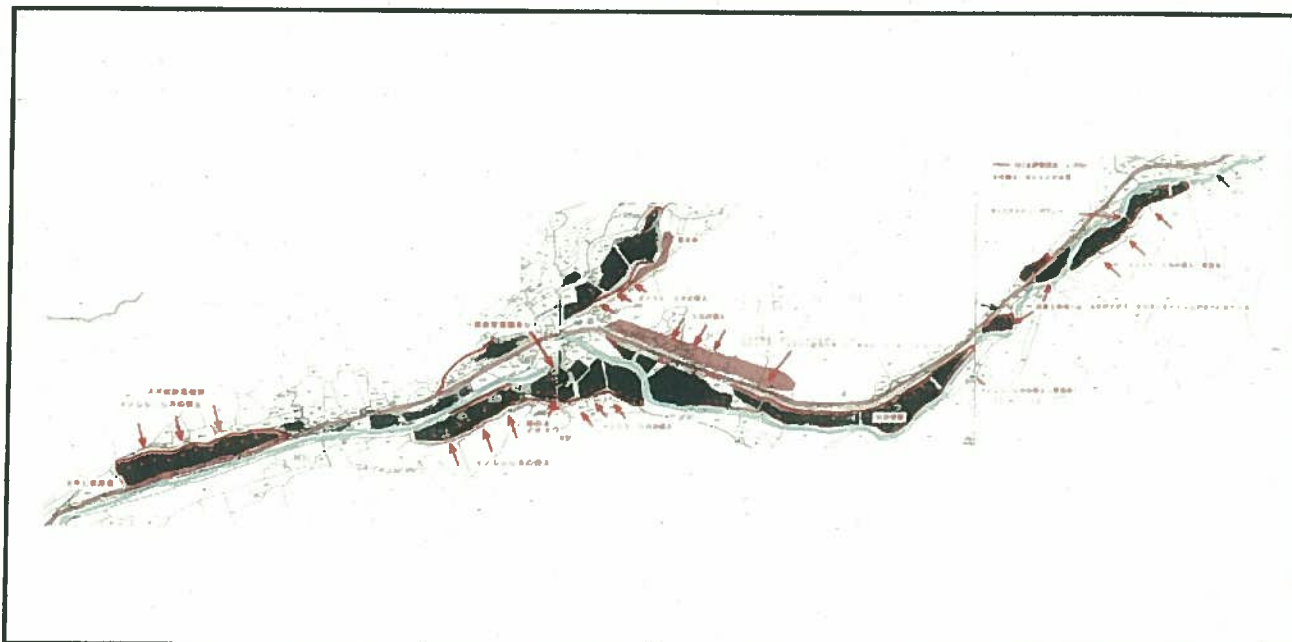
鳥獣被害現地対策本部選定重点地区活動実績

⑪ 日田市熊ノ尾 	加害獣	イノシシ・シカ	戸数	農家戸数	耕地面積	作目
			20	20	6.83	水稻
	集落営農	狩猟者	環境対策	被害の推移	柵設置	
	無	3名	実施	減少	H23設置	
	予防対策 ・国の交付金を活用し、金網柵を設置。 ・金網柵の管理方法等の研修会を実施。 ・花火での追い払い活動					
捕獲対策 ・箱わなの設置場所等の研修会、狩猟免許試験の周知を行い、取得促進。						
集落環境対策 ・金網柵の設置場所の草刈り及び周囲の不用木等の除去を実施。						


		実 績	
		・H23.9.28 イノシシ等の生態、金網柵の管理方法等についての研修会を実施。(地元14名を含む、21名が参加) ・H23.10～H24.1 国の交付金事業を活用し、イノシシ・シカ用の金網柵 3,300mを設置。 ・H24.2 国の交付金事業にて、生息環境管理(草刈り、藪払い)を実施。 ・H24.2.23 小風副知事による現地指導。(地元3名を含む、10名が参加) ・わな猟狩猟免許新規取得者 2名。	

集落住民の声

- ・当該地区は中山間地域であるため、イノシシもシカも出没し、両方の被害があったが、金網柵を設置して被害が減ることを期待している。
- ・農地が広く、延長も長いので、見回り等が大変であるが、効果が持続するよう管理をしていきたい。
- ・当該地区は、ホタル祭りや田畑の土手に彼岸花を植えて地域おこしをしている。鳥獣害が減り、地域が元気になってくれれば良いと考えている。

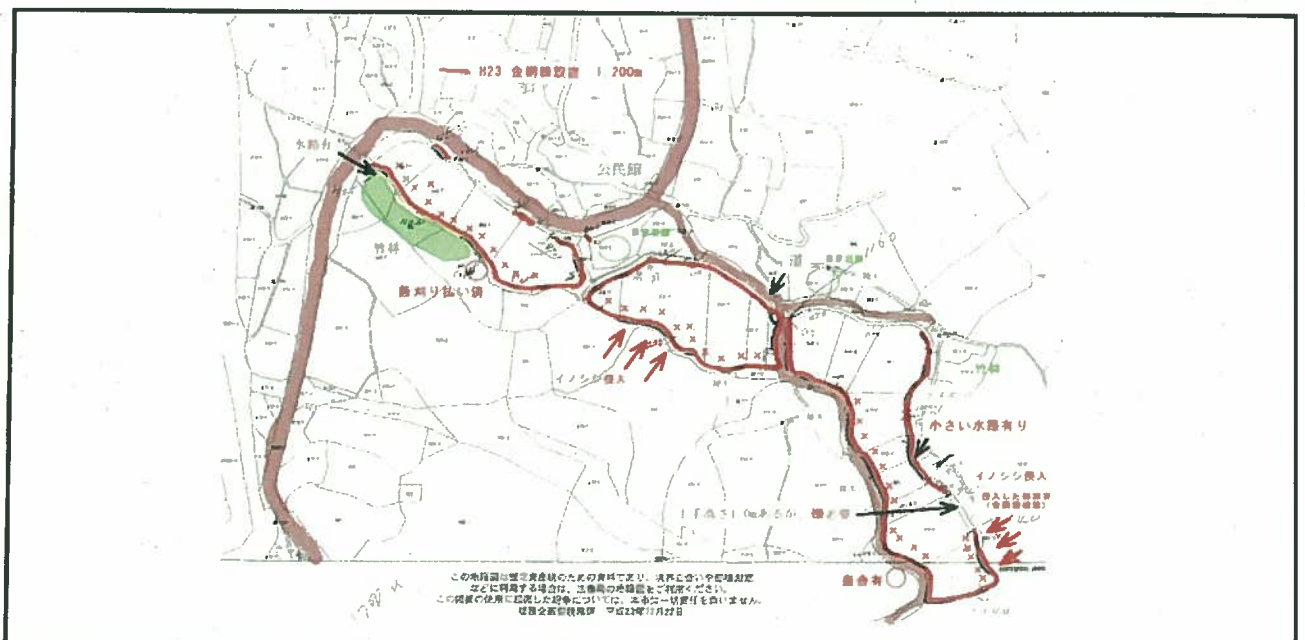


鳥獣被害現地対策本部選定重点地区活動実績

⑫日田市天瀬町本城	加害獣	イノシシ	戸数	農家戸数	耕地面積	作目	
			10	10	2	水稻	
	集落営農	狩猟者	環境対策	被害の推移	柵設置		
	無	1	実施	減少	H23設置		
予防対策							
<ul style="list-style-type: none"> ・国の交付金を活用し、金網柵を設置。 ・金網柵の管理方法等の研修会を実施。 							
捕獲対策							
<ul style="list-style-type: none"> ・箱わなの設置場所等の研修会、狩猟免許試験の周知を行い、取得促進。 							
集落環境対策							
<ul style="list-style-type: none"> ・金網柵の設置場所の草刈り及び周囲の不用木等の除去を実施。 							

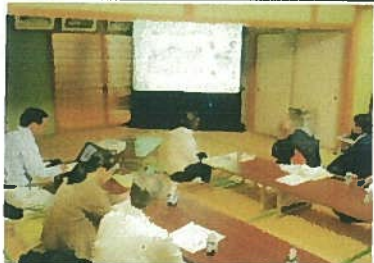

	実 績	
	<ul style="list-style-type: none"> ・H23.5.27 金網柵設置前の現地調査を実施。(地元3名を含む、7名参加) ・H23.10～H23.11 国の交付金事業を活用し、イノシシ・シカ用の金網柵 1,200mを設置。 ・H23.10.11 イノシシ等の生態、金網柵の管理方法等についての研修会を実施。(地元9名を含む、16名が参加) ・H24.2.23 小風副知事による現地指導。(地元2名を含む、9名が参加) 	
		

集落住民の声
<ul style="list-style-type: none"> ・近接する地区が同じような金網柵を設置して、被害が無くなったと聞いているので、この地区も今年は被害が無くなることを期待している。 ・金網柵の設置はこれで完了であるが、全てが終了ではないと思っている。今はイノシシ被害のみであるが、シカ被害が出たら、ネットを上部に設置したり、補修や管理を工夫していきたい。 ・自家菜園の畑については既存の柵を活用して、被害が出ないようにしたい。



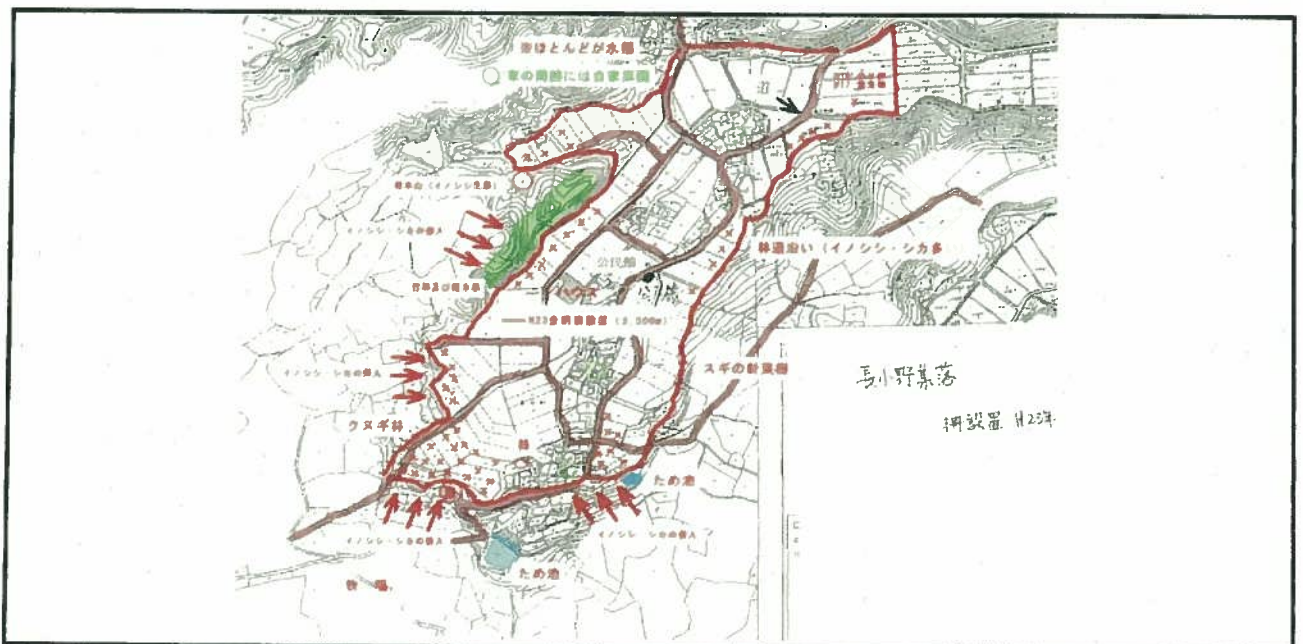
鳥獣被害現地対策本部選定重点地区活動実績

⑬玖珠町長小野 	加害獣	イノシシ・シカ	戸数	農家戸数	耕地面積	作目
			18	18	12.1	水稻
	集落営農有	狩猟者1名	環境対策実施	被害の推移	横ばい	柵設置 H23設置
	予防対策 ・H17年度 電気柵の設置。 ・国の交付金を活用し、金網柵を設置。 ・金網柵の管理方法等の研修会を実施。					
捕獲対策 ・箱わなの設置場所等の研修会、狩猟免許試験の周知を行い、取得促進。						
集落環境対策 ・金網柵の設置場所の草刈り及び周囲の不用木等の除去を実施。						

		実 績
		・H23.10～H24.3 国の交付金事業を活用し、イノシシ・シカ用の金網柵 3,200mを設置。 ・H23.11.18 イノシシ等の生態、金網柵の管理方法等についての研修会を実施。(地元6名を含む、12名が参加) ・H24.2.7 小風副知事による現地指導。(地元15名を含む、約25名が参加)

集落住民の声

・平成17年度に県の補助事業を活用して電気柵を設置したが、イノシシの被害はなかなか減らず、その後も自力でネット等を設置するなど工夫してきた。
 ・今回、大規模な金網柵を設置したが、時間が経てば破壊されて入ってくる所も出てくると思われるので、それも含めて今後管理を確実にし、被害が出ないようにしたい。



鳥獣被害現地対策本部選定重点地区活動実績

⑭九重町中須 	加害獣	イノシシ・シカ	戸数	農家戸数	耕地面積	作目
			14	14	12.5	水稻、飼料作物
	集落営農	狩猟者	環境対策	被害の推移	柵設置	
	有	2名	未実施	減少	H17～H18	
	予防対策 ・H17～中山間地域総合整備事業にて金網柵を設置。 ・シカネットの設置。 ・金網柵の管理方法等の研修会を実施。					
捕獲対策 ・箱わなの設置場所等の研修会、狩猟免許試験の周知を行い、取得促進。						
集落環境対策 ・金網柵の設置場所の草刈り及び周囲の不用木等の除去を実施。						


 	実 績 ・H23.9.29 イノシシ等の生態、金網柵の管理方法等についての研修会を実施。(地元7名を含む、14名が参加) ・H23.11.10 鳥獣害対策アドバイザー研修実施。(地元の方を含む、県下各地から100名程度の参加)
--	---

集落住民の声

- ・金網柵を設置する前はイノシシ被害のみであったが、その後、シカが金網柵を飛び越えて、水田に入るようになり、被害が発生した。
- ・振興局に相談したところ、シカネットを上部に設置するよう指導を受け、地元にて設置した。
- ・その後は、被害がほとんど無くなったので、今後も草刈りなど引き続き管理をしていきたいと思う。



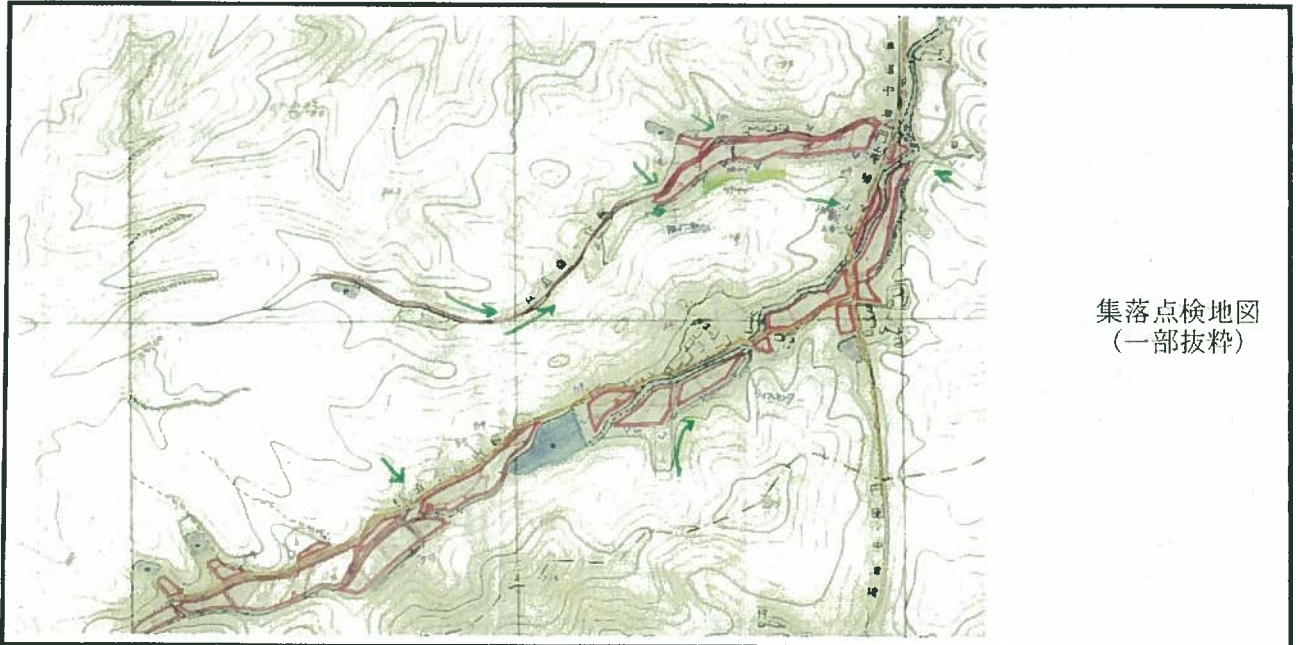
鳥獣被害現地対策本部選定重点地区活動実績

⑮中津市三光上深水小川内 	加害獣	イノシシ	戸数	農家戸数	耕地面積	作目	
			19	18	13	米、小麦、大豆、飼料米等	
	集落営農	狩猟者	有	2名	環境対策	被害の推移	柵設置
					実施	減	H21
	予防対策		集落周辺部はほぼ金網柵等の鳥獣被害防止対策を実施済み。専門員から現地指導をいただいている。				
捕獲対策		集落には狩猟者が2名しかいないため、新たな狩猟者の確保と、計画的な有害鳥獣捕獲が必要。					
集落環境対策		集落営農組織により、協働で環境整備を実施する。					

 普及指導員による 鳥獣害対策研修会	実 績	
	H23. 10. 19 対応打ち合わせ (県、市) H23. 10. 21 現地確認 H23. 10. 22 集落との協議打ち合わせ H23. 11. 15 広域指導専門員による現地指導 H23. 11. 20 集落研修会 H23. 12. 02 視察受け入れ(南部局管内集落) H23. 12. 07 市との打ち合わせ H23. 12. 27 WG会議 H23. 02. 24 WG会議	
地区住民による 集落点検マップ の作成作業		



集落住民の声

- ・研修会では鳥獣害のことをいろいろ勉強できた
- ・行政の協力を仰ぎながら、みんなのできることをやっていく必要がある。



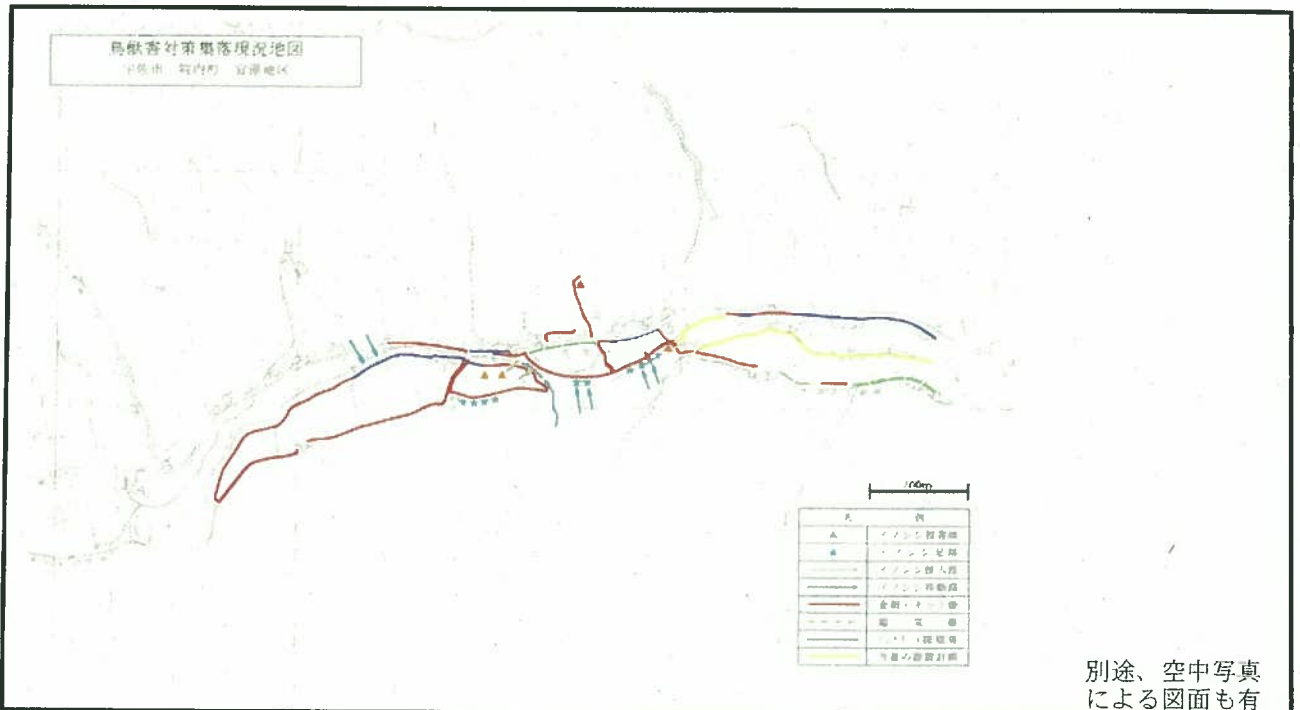
鳥獣被害現地対策本部選定重点地区活動実績

⑩宇佐市内町宮原	加害獣	イノシシ	戸数	農家戸数	耕地面積	作目			
			13	8	5.74	米、ゆず			
			集落営農有	狩猟者1名(わな)	環境対策実施	被害の推移減	柵設置H19		
			予防対策 鳥獣害対策として、ネット柵や電柵を設置している。被害が出ればすぐに対応できる体制ができている。今後、ネット柵を追加し予防対策を補完する計画である。						
			捕獲対策 集落には狩猟者が1名(ワナ猟)だけで、捕獲体制としては不十分である。有害鳥獣捕獲等の計画的実施を進める必要がある。						
			集落環境対策 ゴミ等については、獣害対策として小屋を作り分別収集を行っている。「ひこばえ」についてもすき込むなどの対策を実施している。						


	井上雅央先生を招き 現地対策を点検した	実 績	
		H23. 09. 15 町づくり協議会による鳥獣害対策研修会参加 H23. 10. 06 区長と振興局職員による現地立会 H23. 12. 06 現地検討会（住民と図面内容の確認） H23. 12. 07 柵被害補修状況の確認 H23. 12. 15 井上雅央先生を招き現地対策点検の実施 " 鳥獣害対策研修会参加 H23. 12. 24 現地検討会 H24. 01. 05 WG打ち合わせ H24. 01. 10 小風副知事による視察対応 H24. 01. 24 県政ふれあいトークにて鳥獣害の現状を知事に説明	
鳥獣害対策に関する 研修会の実施			


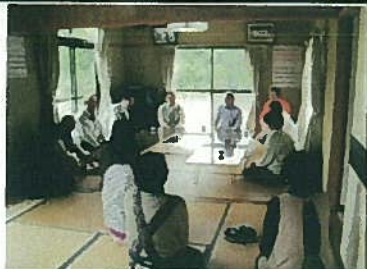
集落住民の声

- ・鳥獣害対策は地域の重要な課題
- ・できる人間で対応しているが限界がある
- ・鳥獣害対策の補完が必要なので補助等の措置をお願いしたい。



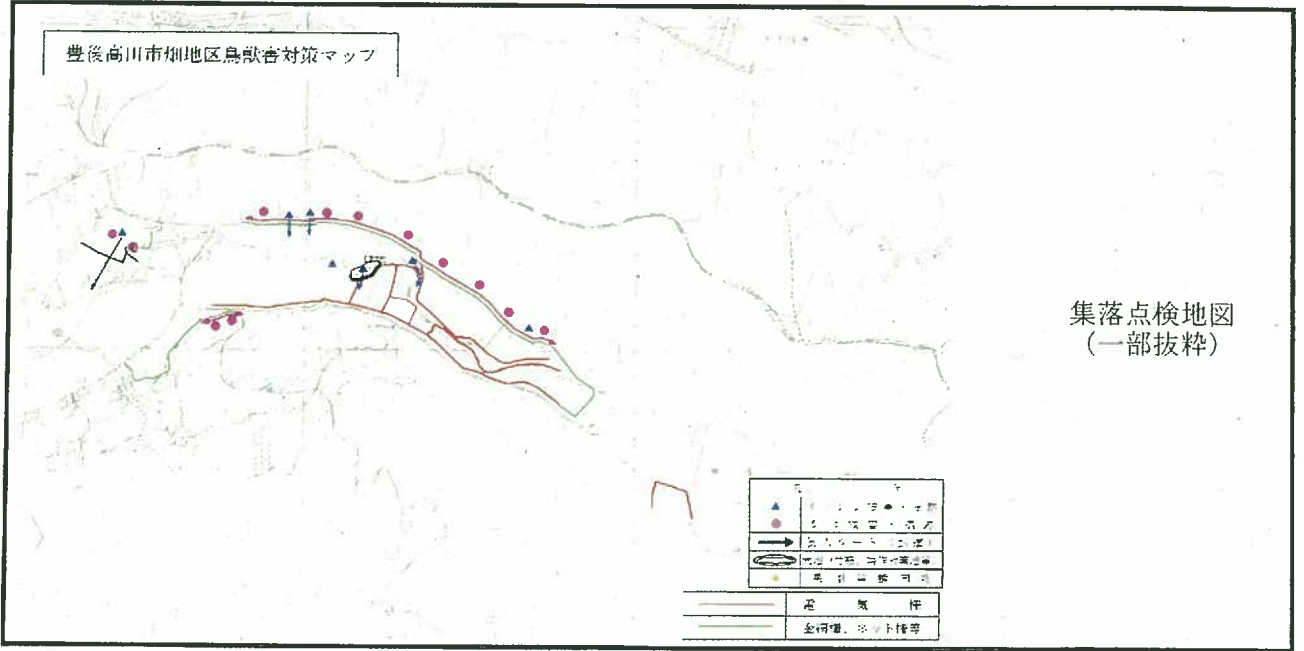
鳥獣被害現地対策本部選定重点地区活動実績

⑰豊後高田市畑 	加害獣	イノシシ、シカ	戸数	農家戸数	耕地面積	作目
			31	21	17.7	米、そば、小麦
	集落営農有	狩猟者	環境対策実施	被害の推移	柵設置	
		1		減	H21	
	予防対策 鳥獣害対策として、ネット柵や電柵等を設置している。被害が出ればすぐに対応できる体制ができています。シカの出現が増えてきたのが問題である。					
捕獲対策 集落には狩猟者が1名だけで、捕獲体制としては不十分である。新たな狩猟者の確保や有害鳥獣捕獲等の計画的実施を進める必要がある。						
集落環境対策 (農)グリーンファーム畑を中心として地元が協力しながら集落環境整備を進めていく。耕作放棄地も含め、圃場整備の要望がある。						

 井上雅央先生を招き現地対策を点検した	 地元集会所において鳥獣害対策についてディスカッション	実 績
		H23. 11. 11 WG会議 H23. 11. 17 WGと集落との協議 H23. 12. 22 井上雅央先生を招き現地対策点検の実施 H24. 1月中旬 ネット柵周辺の草刈り H24. 01. 26 WG会議 H24. 2月上旬 河川敷雑木の伐採 H24. 02. 16 WG会議 H24. 02. 21 小風副知事による視察対応

集落住民の声

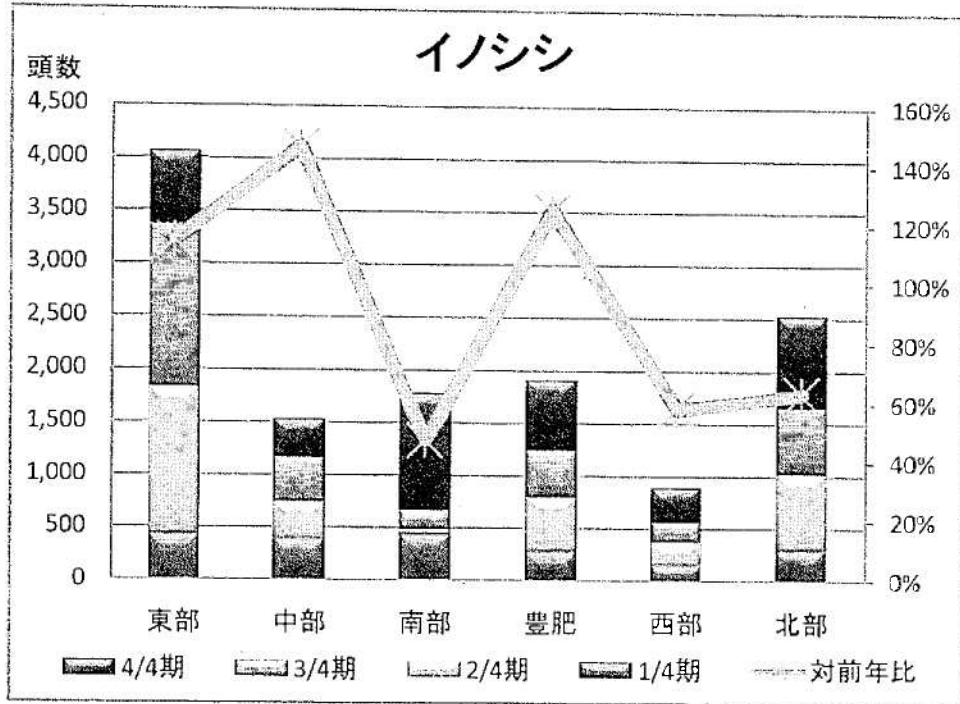
- ・イノシシ・シカの被害は深刻な問題
- ・(農)グリーンファーム畑と連携しながら進めていく
- ・耕作放棄地等の問題が残っている
- ・金網柵、ネット柵の地際の下草刈り作業が難しくて問題



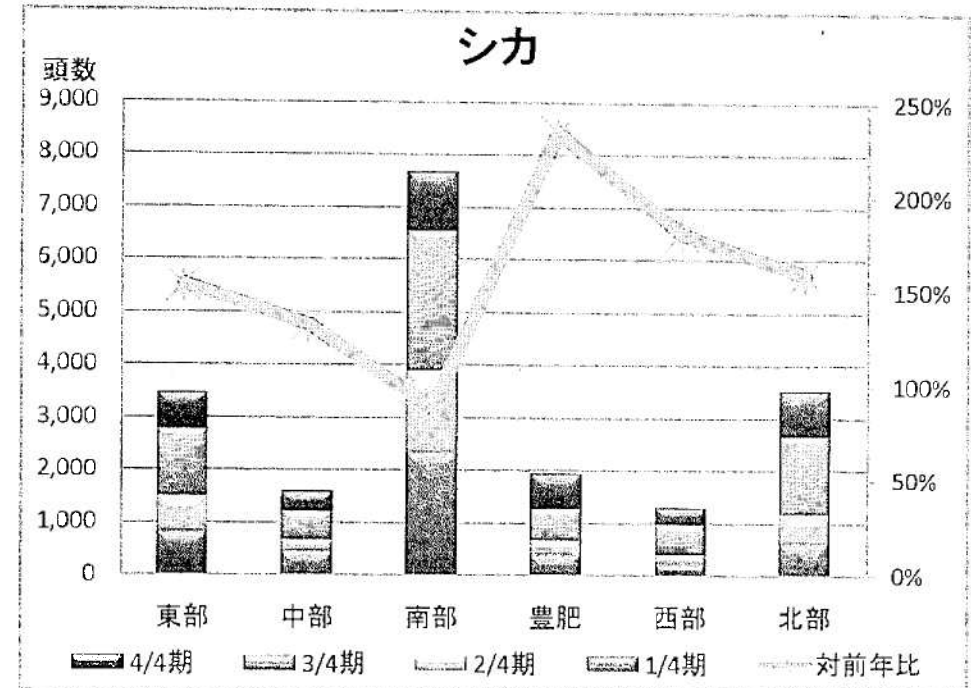
捕獲対策（有害鳥獣捕獲）

平成23年度 イノシシ・シカ捕獲速報（狩猟を除く）（局別）

（H24年2月末集計）



単位:頭



単位:頭

区分	東部	中部	南部	豊肥	西部	北部	局計
1/4期	432	391	440	278	152	301	1,994
2/4期	1,391	350	40	520	223	723	3,247
3/4期	1,545	420	183	440	192	639	3,419
4/4期	862	103	39	91	7	342	1,444
計	4,230	1,264	702	1,329	574	2,005	10,104
前年同期	3,701	865	1,491	1,064	986	3,173	11,280
(比)	114%	146%	47%	125%	58%	63%	90%

区分	東部	中部	南部	豊肥	西部	北部	局計
1/4期	804	449	2,332	406	212	621	4,824
2/4期	691	208	1,563	254	191	556	3,463
3/4期	1,272	560	2,661	614	566	1,476	7,149
4/4期	694	365	1,117	669	324	868	4,037
計	3,461	1,582	7,673	1,943	1,293	3,521	19,473
前年同期	2,258	1,195	8,693	830	716	2,221	15,913
(比)	153%	132%	88%	234%	181%	159%	122%

イノシシ・シカの県内一斉捕獲（第2回）の実施について

イノシシ・シカの猟期が3月15日に終了したことから、春先の被害軽減と、特にシカの効果的な個体数調整を行うため、下記のとおり、本年度第2回目の県内一斉捕獲を実施した。

- 1 実施日：平成24年3月25日（日）
- 2 実施区域：県内一円（大分市、別府市、姫島村を除く）
- 3 実施方法
 - (1) 市町の有害鳥獣捕獲許可の範囲
 - (2) 有害鳥獣捕獲班が出動（800名の参加予定を上回る猟友会員912名が参加）

4 実施結果（集計中）

振興局	捕獲数（頭）			参加者数（人）
	イノシシ	シカ	計	
東部	16	12	28	112
中部	6	25	31	138
南部	12	65	77	189
豊肥	14	10	24	164
西部	11	22	33	162
北部	5	30	35	147
計	64	164	228	912

※重点地区での捕獲を依頼し、集落の加害獣と思われるイノシシを捕獲。
前回よりも多く出猟してくれたが、地区の総会と重なった班員も多かった。

5 参 考：第1回県内一斉捕獲結果（平成23年10月16日実施）

振興局	捕獲数（頭）			参加者数（人）
	イノシシ	シカ	計	
東部	24	27	51	169
中部	14	6	20	190
南部	15	82	97	192
豊肥	7	10	17	129
西部	4	12	16	126
北部	14	22	36	145
計	78	159	237	951

③ 予 防 対 策 (防護柵等設置状況)

(単位：km)

	H21年度	H22年度	H23年度 (予定)	H24年度 (計画)	備考
国庫事業	293.4	222.7	486.6	558.9	
県単事業	431.6	489.2	600.0	717.2	
合計	725.0	711.9	1,086.6	1,276.1	

○ 国庫事業による鳥獣侵入防止施設の年度別整備状況

(単位：箇所、km)

事業の種類		H21年度	H22年度	H23年度 (予定)	H24年度 (計画)	備考
		①鳥獣被害防止総合対策交付金 (森との共生推進室)	実施市町村	—	15	
電気柵	—	2.5	0.5	11.2		
金網柵	—	33.7	257.2	283.8		
ネット柵	—	—	2.5	—		
トタン柵	—	9.3	—	—		
②地活性化総合対策事業(H23) 鳥獣被害防止総合対策交付金 (H21) (国の直接採択)	実施市町村	10	—	4(2)	4	H23：宇佐市、津久見市が国の直接採択を兼用 宇佐市：中津・豊前・上毛地域鳥獣被害防止広域対策協議会に加入（豊後高田も加入：H23事業は無し） 津久見市：佐伯・臼杵・豊後大野・延岡・日之影と広域対策協議会を設立
	電気柵	18.3	—	8.7	12.0	
	金網柵	72.1	—	88.3	88.0	
	ネット柵	28.6	—	11.9	11.0	
	トタン柵	—	—	2.0	—	
③-1 中山間総合整備事業 (農村基盤整備課)	実施市町村	3	4	2	6	中津市(H21,22,23)、日田市(H22,23)、佐伯市(H21,22,23)、豊後大野市(H21,22) H24：杵築市、豊後大野市、佐伯市、九重町、日出町
	金網柵	15.5	30.3	11.1	47.0	
③-2 農村振興整備事業 (農村基盤整備課)	実施市町村	1	1	1	1	H24:佐伯市
	金網柵	21.1	16.3	1.4	0.9	
④公共造林事業 (森林整備室)	実施市町村	10	12	17	17	
	ネット柵	137.8	130.6	103.0	105.0	
合 計	電気柵	18.3	2.5	9.2	23.2	
	金網柵	108.7	80.3	358.0	419.7	
	ネット柵	166.4	130.6	117.4	116.0	
	トタン柵	—	9.3	2.0	—	
	延長合計	293.4	222.7	486.6	558.9	

○ 県単事業による鳥獣侵入防止施設の年度別整備状況

(単位：箇所、km)

事業の種類				H21年度	H22年度	H23年度 (見込)	H24年度 (計画)	備考
⑤鳥獣被害総合対策事業 (森との共生推進室)	イノシシ	実施市町村		17	17	17	17	
		電気柵		400.5	409.7	557.5	691.5	
		金網柵		4.5	42.6	3.7	4.8	
		トタン柵		5.6	4.3	5.4	4.7	
	サル	電気柵		1.3	0.3	1.0	1.0	
		ネット柵		1.6	0.4	0.0	-	
	シカ	ネット柵		18.1	31.9	30.4	13.4	
⑥森林シカ被害防止対策事業 (森との共生推進室)	実施市町村		2	3	4	4		
	ネット柵		0.0	0.0	2.0	1.8		
	(樹皮ガード)		1,920枚	3,600枚	6,000枚	5,400枚		
合 計	電気柵		401.8	410.0	558.5	692.5		
	金網柵		4.5	42.6	3.7	4.8		
	ネット柵		19.7	32.3	32.4	15.2		
	トタン柵		5.6	4.3	5.4	4.7		
	延長合計		431.6	489.2	600.0	717.2		

電気柵



金網柵



ネット柵



トタン柵



第4期特定鳥獣(ニホンジカ)保護管理計画の概要について

1 基本方針等

《基本方針》

- ・有害鳥獣捕獲、新たな個体数調整及び狩猟による捕獲を実施し、適正な生息密度に誘導
- ・防除対策や生息環境対策等も並行して実施

項 目	内 容
計画期間	平成24年4月1日から平成29年3月31日
対象地域	県下全域(姫島村を除く。)
保護管理の基本目標	①農林業被害の軽減 ②自然環境への影響の軽減 ③地域個体群の維持
地域個体群区分	生息分布の状況等から、「国東半島地域(A地区)」、「耶馬日田英彦山地域(B地区)」、「県央地域(C地区)」、「県南地域(D地区)」の4つの管理地域に区分し、個体数管理を行う。必要に応じて、各管理地域は更に小さく区分する。

2 捕獲目標等

項 目	内 容
推定生息頭数	<p>大分県全域 中央値約58,000頭 (最小値約37,000頭～最大値約79,270頭)</p>
今計画期末の生息頭数	<ul style="list-style-type: none"> ○国東半島(A) 5,800頭まで減少させることを目標 ○耶馬日田英彦山(B) 10,000頭まで減少させることを目標 ○県央地域(C) 1,200頭まで減少させることを目標 ○県南(D) 12,300頭まで減少させることを目標
個体数管理の手法	<ul style="list-style-type: none"> ・有害鳥獣捕獲、個体数調整及び狩猟による捕獲を実施し、適正な生息密度に誘導するとともに、分布拡大域等の低密度地域において新たな効率的な捕獲方法を検討する。 ・隣接県等と連携した個体数管理の実施 ・狩猟における規制緩和の実施

第2期と第3期計画との主な変更点

区 分		第3期保護管理計画	第4期保護管理計画
期 間		平成19～23年度	平成24～28年度
現 状	農林業被害額	平成19年度 101,820千円 平成20年度 87,099千円 平成21年度 89,588千円 平成22年度 80,635千円	
	捕獲頭数	平成19年度 9,659頭 平成20年度 12,910頭 平成21年度 19,723頭 平成22年度 23,651頭	
	推定生息頭数	平成18年度調査 中央値約 85,000頭	平成22年度末 中央値 約 58,000頭
計 画 内 容	生息目標密度	①保護地域 5頭/km ² ②調整地域 3頭/km ² 以下	①保護地域 3頭/km ² 以下 ②調整地域 3頭/km ² 以下 ③新たな分布拡大地域 根絶
	規制緩和等	①狩猟期間の延長(3ヶ月→4.5ヵ月) ②1頭/1日・1人の捕獲制限の撤廃 ③直径が12cmを越えるくくりわな使用禁止撤廃 ④特例休猟区内のシカの可猟化 ⑤メスジカの可猟化	⇒ ①～④継続 ⑤はH19年度の鳥獣保護法改正によりメスジカが狩猟鳥獣(狩猟可能)となったため、緩和事項から削除
	個体数管理の手法等	有害鳥獣捕獲、個体数調整及び狩猟による捕獲を実施し、適正な生息密度に誘導する	有害鳥獣捕獲、個体数調整及び狩猟による捕獲を実施し、適正な生息密度に誘導するとともに、分布拡大域等の低密度地域において新たな効率的に捕獲方法を検討する。
	計画期末の目標		平成28年度末 中央値 約 29,300頭

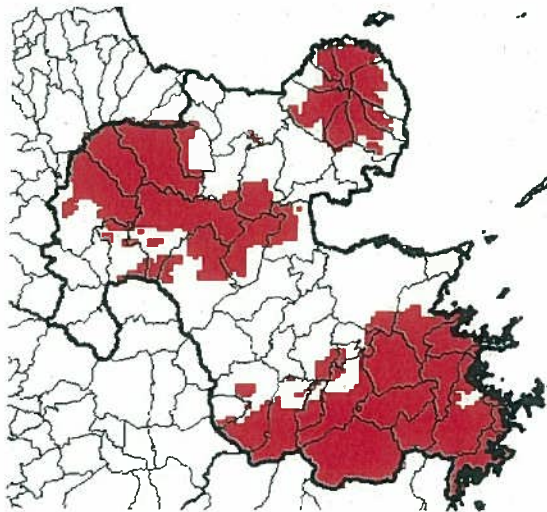
管理区域C（県央地区）の取り扱いについて

1. 経緯

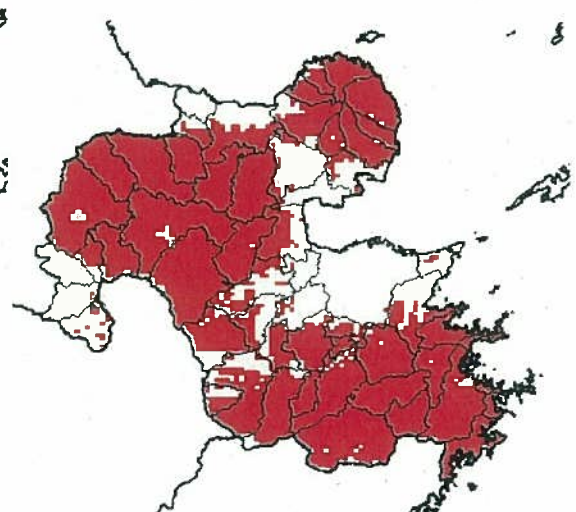
1996年に実施したシカ生息調査によると、大分県内には、国東半島（国東半島地域個体群）、英彦山を中心とする福岡県境一帯から玖珠郡に広がる地域（日田耶馬英彦山系地域個体群）、祖母・傾山系から海岸に広がる地域（祖母傾山系地域個体群）の3つの個体群に分けられたが、近年、分布域は拡大しており、2011年の生息分布図ではそれぞれの個体群が連続するようになった。

C地区において、新たな拡大地域は、津江地域、久住高原、大野川より北部地域に分布域が拡大している。このうち、くじゅう連山を含む久住高原は、希少な植物や昆虫などが生息する地域である。シカが存在しないという条件下で歴史的に成立している生態系だけに、シカによる加害が重大なインパクトを与える恐れがある。そのため、根絶を目標とした個体数調整捕獲や防護柵の設置を検討する必要がある。

第3期の特定鳥獣保護（ニホンジカ）管理計画では、県央地区をC地区として一括にしていたが、第4期以降の計画では、分布管理及び個体管理を適正に行うため、C地区を4つに細分した管理区分とすることにした。



シカ生息分布（1996年）

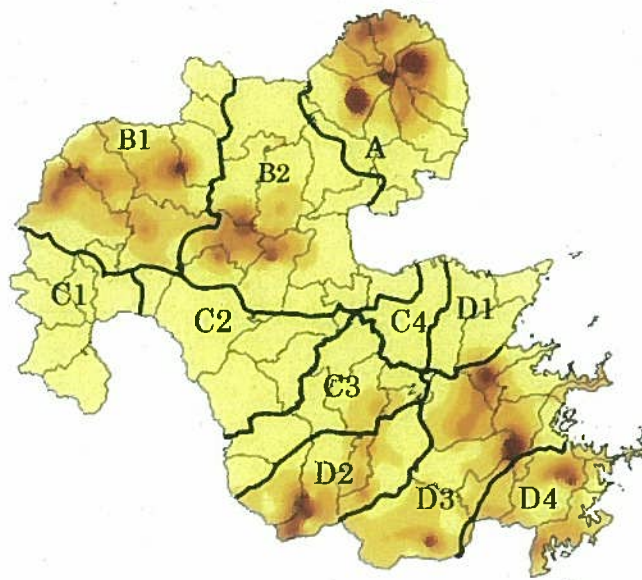


シカ生息分布（2011）

2. C地区の細分について

下記に示すようにC地域を4地域に細分し、11地域に区分する。

区域名		区域	地域個体群	市町村
A	国東半島地域	国東半島地域	国東半島地域個体群	豊後高田市、国東市、杵築市東部
B (B1~B2)	耶馬日田英彦山地域	余藻川・日豊本線と大分川・三隈川に挟まれた地域	日田耶馬英彦山系地域個体群	B1：日田市北部、中津市、玖珠北西部 B2：宇佐市、杵築市西部、日出町、別府市、由布市北部、九重町北部、玖珠町東部
C (C1~C4)	県央地域	大分川・三隈川と大野川に挟まれた地域	A、B、Dの地域個体群の流入	C1：日田市南部 C2：九重町南部、玖珠町南部、竹田市北部、由布市南部 C3：豊後大野市北部、大分市西部 C4：大分市中部（市街地）
D (D1~D4)	祖母傾山山系地域	大野川以南の地域	祖母傾山山系地域個体群	D1：大分市東部、臼杵市北部 D2：豊後大野市南部、竹田市南部 D3：臼杵市南部、津久見市、佐伯市北西部 D4：佐伯市南東部



3. C地域における課題

(1) 生息や被害等情報収集

C地域は生息分布の拡大地域で生息密度も低かったことから、モニタリング（定点）調査地点を設けておらず、過去の生息密度動向など基礎的情報が少ない。

(2) 稀少植物への影響

久住高原には貴重な樹林や稀少植物が多く影響が懸念されるが、緊急に保護すべき植物種や区域など具体的施策を講じるための検討がされていない。

(3) 捕獲方法

柵等による被害防除とともに、根絶を目標とした積極的な捕獲が必要であるが、適切で効果的な捕獲技術が確立されていない。

4. 対策

(1) 調査・情報収集・分析

県農林水産研究指導センター林業研究部や森林管理署などの関係機関や関係団体とも連携し、生息分布や密度調査、被害調査、効率的な捕獲技術などに取り組む。

(2) 被害防止対策（主な取り組み）

[C1地区]

C1地区は生息密度が低く、被害は軽微であるが、今後生息密度の増加とともに林業被害の発生が懸念されるため、現在の生息数より低い3頭以下/k㎡を目指す。また、被害発生動向をみながら、ネット柵やバークガードなどの防除対策を講じていく。

[C2地区]

久住高原には原野や草地が多く、将来、生息数が大きく増加する恐れがある。稀少植物群への影響も危惧されるため、有害捕獲や個体数調整捕獲を積極的に進め、阿蘇・くじゅう国立公園区域の稀少植物群に影響が出る恐れがある地域については根絶、それ以外の地域については現在の生息密度よりも低い状態を目指す。また、稀少野生植物等に被害が発生する場合は、緊急的な防護柵の設置を検討する。

[C3地区]

大野川より北部地域に農地が広がる県下でも代表的な農業生産地である。近年分布が拡大し、農業被害が発生している。狩猟や有害捕獲での捕獲を積極的に推進し、現在の生息密度よりも低い状態を目指すとともに、防護柵の設置を推進する。

[C4地区]

生息確認されていない未分布域が多い。当面、狩猟による捕獲を進め、分布域の拡大防止に努める。

大分県におけるアライグマ対策

1. アライグマとは

(1) 特定外来生物

生態系、人の生命身体、農林水産業に被害を及ぼし又は及ぼすおそれがあるものとして外来生物法に基づき指定された外来生物。

(2) 生態等

・天敵がないため増加率が高く短期間に急増し、都市近郊を中心に全国的に広く分布している。九州では、長崎県と佐賀県に特に多く生息している。

・九州各県のH22年度の捕獲状況等

長崎県： 1,015頭（県内21市町村中19市町村が防除計画を策定。）

佐賀県： 387頭（県内全市町村が防除計画を策定。平成23年度からアライグマ1頭につき2千円の報奨金を創設。）

福岡県： 70頭（防除計画は、NPO1団体のみ策定。）

(3) 本県の状況

・捕獲されるなど生息が確実：9市（大分市、別府市、中津市、日田市、佐伯市、臼杵市、豊後大野市、由布市、竹田市）

・目撃情報等により生息の可能性がある：4市町（豊後高田市、杵築市、宇佐市、九重町）

(4) 外来生物法によるアライグマ対策のメリット

・平成33年3月31日までの捕獲期間設定、通年捕獲が可能

・捕獲の実施にワナ免許を要しない（取扱講習（各市町村で実施）受講者でも可）

・捕獲したアライグマの移動が可能（狩猟・有害鳥獣捕獲ー移動できるのは地方公共団体の職員のみ）

2. 平成23年度の取組

県内市町村が、外来生物法に基づく手続き（防除計画の確認）を経てアライグマの防除を実行できる体制を整えることができるよう支援を行った。最終的には、県内全市町村における防除計画策定を目指す（佐賀県は全市町村、長崎県は離島2市を除く全市町村で策定済み）。

また、県ホームページにおいてアライグマ等特定外来生物について啓発を行った。（外来生物被害予防の3原則「入れない・捨てない・広げない」等）

(1) アライグマ防除のための手引き作成

・県内全市町村、その他関係機関（農業・鳥獣・保健等）に配布

・県ホームページに掲載

(2) アライグマ防除講習会（3回）

（実施箇所）大分市：1月25日 大分文化会館第1小ホール 参加者54名

由布市：2月 1日 クアージュ由布院 参加者38名

別府市：2月 7日 市役所レセプションホール 参加者65名

（参加者）市町村職員、一般住民、農業者、猟友会、県振興局職員等

（内容）外来生物法、アライグマの生態・分布、防除の方法、捕獲実習等全般の解説

3. 平成24年度の取組

引き続き市町村に対する支援を行う。

・アライグマ防除講習会（4回）

4. 市町村の取組状況

・別府市が外来生物法に基づく防除計画の確認手続きを終了し、捕獲従事者の確保、ハコワナの購入等アライグマ防除の体制整備を進めている。

・国東市、臼杵市、津久見市、豊後大野市、九重町、玖珠町、日田市、大分市の8市町が防除計画確認の申請を目指し準備を進めている。

罠いワナによるニホンジカの捕獲に関する研究

(研究期間 H21~22)

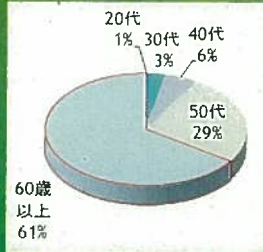
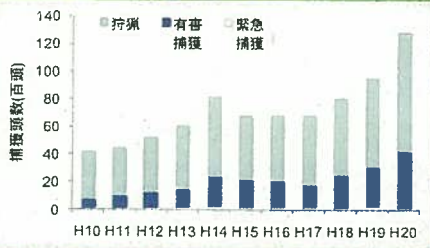
県内のシカ分布図



- 英彦山系・国東半島・祖母山系が分布の中心
- 生息頭数 約85,000頭
- 農林作物に大きな被害
- 分布は拡大傾向

↓
生息密度の調整が必要

造林木被害

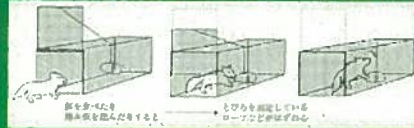


近年は年間1万頭以上の捕獲
狩猟者の高齢化
↓
捕獲数の増加は困難
↓
罠いワナに注目！！

罠いワナとは・・・獣が入り込んで餌をくわえて引いたりすると、出入り口が半自動的に閉まることにより、鳥獣を閉じ込めて捕獲するわなのことである。箱わなに似ているが、天井部分がない(狩猟読本)。

罠いワナのメリット

- 複数頭捕獲することができる
- 人里周辺に住みついたシカを選択的に捕獲できる
- 捕獲に労力がかからない



罠いワナの改良を行い、効果的な捕獲方法を研究

罠いワナの全体図



捕獲実績

日付	内容	Memo
2009/11/2	餌付け開始	配合飼料
2009/12/7	罠いワナ設置	
2010/1/18	仕掛け開始	
2010/1/24	2頭捕獲	メスの成獣と幼獣
2010/2/16	捕獲	オス・幼獣21kg
2010/3/11	捕獲	オス・幼獣18kg
2010/3/29	捕獲	メス・成獣30kg
2010/6/10	捕獲	オス・幼獣17kg
2010/07/26	捕獲	オス・幼獣23kg
2010/09/18	捕獲	メス・幼獣21kg
2010/10/12	捕獲	メス・幼獣13kg
2011/1/21	捕獲	メス・成獣32kg
2011/3/28	2頭捕獲	メス成獣2頭
2011/4/16	捕獲	メス・成獣38kg
2011/8/21	2頭捕獲	メスの成獣と幼獣

15頭捕獲

→設置した罠いワナは、一度の大量捕獲は難しいが、定期的な捕獲が可能のため**集落の捕獲対策**として有効！！
→改良を行うことにより低コストで安全な捕獲が可能

クヌギ萌芽更新におけるシカ被害防除技術に関する研究 (平成23年度～平成25年度)

H23

森林チーム 研究員 北岡 和彦

I. はじめに

近年、しいたけ原木を伐採した後のクヌギやコナラの萌芽にシカの食害が発生しています。シカの食害により萌芽更新が阻害されると、しいたけの原木供給に影響を及ぼすと考えられ、萌芽更新に適した防除方法の確立が求められます。

萌芽は、新植に比べ伸長生長が速く、シカの口が届かないと言われる1.5～2mまで成長する期間が短いと考えられます。



II. 方法

伐採後1年目にシカの食害が発生したクヌギ及びコナラ林分を対象にして単木防除資材(くわんたい)と防鳥ネット、遮光ネットを用いた防除試験を行ないました。防除資材は山国町と耶馬溪町において2011年7月に設置しました。また、林業研究部内において食害の発生前の2011年5月に防除資材を設置しました。



単木防除

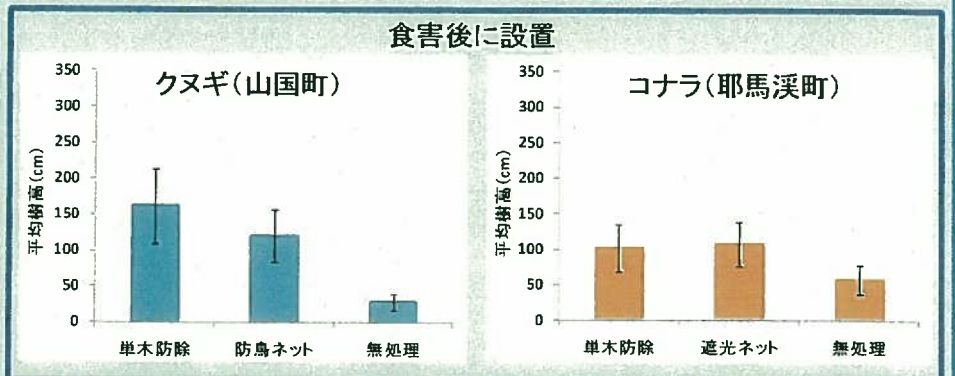
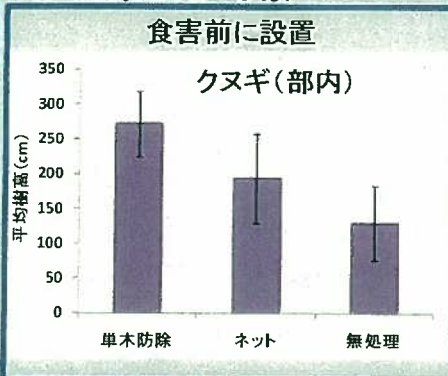
防鳥ネット

遮光ネット

防除資材の概要

	単木防除	防鳥ネット	遮光ネット
資材費	650円/個	593円/m	474円/m
設置	4分/個	2.4分/m	3.6分/m

III. 結果及び考察



- ・設置した防除資材がシカによって破られることはなかった(2012年2月現在)。
- ・単木防除では、クヌギに比べコナラの成長量は小さかった。→防除資材によって光が遮られた！？
- ・食害の発生前に防除資材を設置したクヌギでは、食害発生後に比べ成長量が大きかった→食害の発生前に防除資材を設置することが重要！！
- ・単木防除は成長は良いが、萌芽枝は貧弱になる傾向があり、害虫(ハバチ類)が発生すると被害が大きい→ネット等で囲うのが有効！？→防除資材の検討

IV. 今後

被害の実態調査や枝条を利用した防除方法の検討を行なうと共に、食害後3年目に防除を施した場合のクヌギの成長などシカの食害が与える生理的影響を調査していく必要があります。また、クヌギとコナラでは生長特性が異なり、種の特性に応じた防除方法を考えていく必要があると考えられます。

シカによる森林被害の防除方法に関する研究

◆シカ被害における森林被害対策の推進に向けた取り組み◆

【研究期間：平成17年～19年】

森林整備担当 主幹研究員 高宮 立身

暗視カメラによる行動観察(場内)

①植栽木への加害行動を観察して、効果的な防除方法の検討

出没したシカ
オス5頭 メス1頭
ピーク
3時～6時

②シカの給与飼料の有効性の検証

米ヌカ × 岩塩 4ヶ月後から積極的

観察結果
角こすりはオス、
樹皮喰いはメスカ
子シカ



低コスト防止対策(場内)

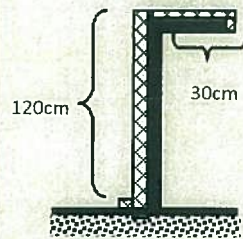
- ①竹杭による樹皮防除
- ②枝条寄せ積み試験
- ③下枝残し試験

被害発生無く、
防除効果有り

防除資材の効果試験(場内)

- ①底を設けた防護柵
- ②ダブルネット

①シカの目線より高
くする
②ウサギには4mm
目合いで効果



モデル集落におけるシカ被害軽減対策に関する研究

◆シカ被害における総合対策の推進に向けた取り組み◆

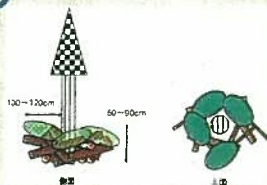
【研究期間：平成20年～22年】

森林チーム 研究員 北岡 和彦

防除対策(現地実証)

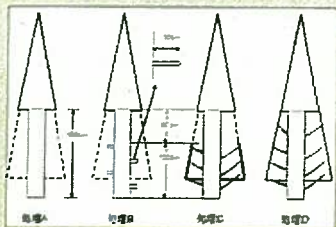
- ①枝条積み寄せ試験
- ②下枝残し試験

場内での検証結果を実証するため、別府市の山林において功程調査及び防除試験を実施



64本/人・日
処理木の被害は
なし。効果有り

下枝を残すこと
によって被害を
軽減することができる



モデル選定・調査

シカ被害が激減した集落をモデル集落に選定し、被害対策や効果を検証

- ①モデル集落
玖珠町大字古後 梶原集落

- ②被害防止対策
・H19電気柵(県単)
・H20ネット柵(中山間交
付金)

除草は全員
保守・点検は管
理責任者を選任

集落全体での取り組み → 被害の軽減効果

生息密度調査(糞粒法)

捕獲圧の強化

囲いワナ

A地点 34頭/km2
B地点 65頭/km2



許容密度 4頭/km2

考察


林地における枝条寄せ積みと下枝残しはシカの角擦り被害に対して一定の効果が認められました。農地では集落全体で被害対策に取り組むことで、より効果的に対策を講じることができ、対策を講じた後も集落全体で協力して管理することにより個々の負担が軽減し継続管理が望めると考えられます。

自力施工による防護柵設置の「カイゼン」事例

事例1 (資材)：金網フェンスに比べ、ワイヤーメッシュの方が施工が容易

	金網 フェンス		○防護柵の種類：ワイヤーメッシュ ○柵の大きさ等：1,200mm*2,000mm
			○対象鳥獣：イノシシ
			○改善のきっかけとなった内容 現地協議会における現地視察や実際に両方の資材を使用して施工し、実感した
○改善した内容 金網フェンスとワイヤーメッシュの設置について平地における施工性を比べた結果、ワイヤーメッシュの方が設置が容易である。			
○改善した結果 以前、金網フェンス柵の設置経験があるが、これに比べワイヤーメッシュ柵は1枚ごとに置いて固定するのみなので、設置施工が比較的容易であった。			
<留意事項> 金網フェンスは(20m程で巻いている製品)設置時の両サイド引っ張り手間等、下部整列手間等、設置が大変である。(地元談) 但し、斜面や凹凸のある接地面の場合は、曲面に合わせて加工できる金網フェンスの方が施工性がよい、重量が小さいため運搬が容易といった利点がある。			
<報告者> 所属・氏名 日出町農林水産課 八坂			

事例2 (設置場所)：市道に対応した防護柵は折り返しで対応

	○防護柵の種類：ワイヤーメッシュ ○柵の大きさ等：1,200mm*2,000mm	
		○対象鳥獣：イノシシ
		○改善のきっかけとなった内容 市道に対応した施工
○改善した内容 市道等公道は門扉等で閉めることは不可能であるため、市道沿いの両側に沿って防護柵を施工した。		
○改善した結果 今年度折り返しを施工した地区では効果が不明であるが、交付金事業ではないが、過去に同様な折り返しを施工し、集落全体を防護柵で囲んだ地区では、当施工地(市道)からイノシシに侵入された事例は皆無である。		
<留意事項> 折り返しをどの程度の延長施工すれば良いか、それぞれイノシシの出没頻度により考慮する必要あり。		
<報告者> 所属・氏名 杵築市町農林水産課 倉林		

事例3（施工方法）：短い支柱を先打ちし、上からパイプ支柱を被せる方法で案に安全施工



○防護柵の種類：ワイヤーメッシュ
○柵の大きさ等：
H=2000mm,W=2000mm

○対象鳥獣：イノシシ、シカ

○改善のきっかけとなった内容
支柱の高さが高いため、直接打ち込むには不安定である。

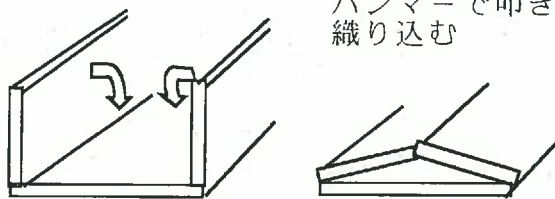
○改善した内容
支柱を打ち込む際に、まず短い支柱を地面に打ち込みその上からパイプ支柱を被せるようにした。

○改善した結果
施工性が向上し、高いところから直接打たずにすむため事故の可能性が減った。

<留意事項>
イノシシの掘上げ対策のため、ワイヤーメッシュ柵の下部にアンカーを必ず設置すること。

<報告者> 所属・氏名 九重町鳥獣害対策協議会 衛藤雅史

事例4（施工方法）：支柱の先端を加工による作業の省力化



○防護柵の種類：金網フェンス柵
○柵の大きさ等：H=1200mm

○対象鳥獣：イノシシ

○改善のきっかけとなった内容
設置（支柱打ち込み）時の省力化

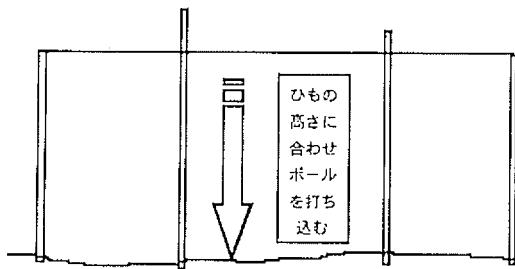
○改善した内容
支柱の地中に打ち込む側の先をハンマー等で叩いて尖らせるように加工した。
（釘やアンカーピンのような先の尖った形状にする）

○改善した結果
地盤が固い場所でも比較的打ち込みやすくなった。結果として、作業効率が向上し、作業時間の短縮や労力の軽減が図られた。

<留意事項>
最初から全ての支柱をこのように加工するのではなく、その場所の地盤の状況によって対処する方がより効率的である。

<報告者> 所属・氏名 国東市林業水産課 長木

事例5（施工方法）：ひもを活用して、柵をまっすぐに設置



○防護柵の種類：金網（結線）柵
○柵の大きさ等：1,800mm

○対象鳥獣：シカ・イノシシ

○改善のきっかけとなった内容
設置時の省力化

○改善した内容

支柱を設置する際に端と端をひもでつないで引っ張り、そのひもの高さに支柱の先端をあわせる。

○改善した結果

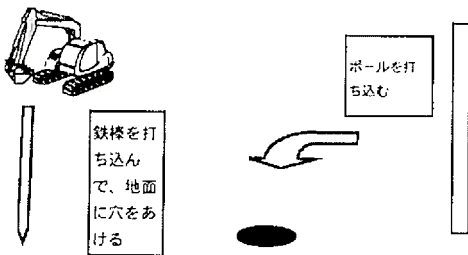
当初は、支柱の高さが均一にならなかったが、この改善により支柱と柵の高さが均一になった。また、ねじれが少なくなり金網をまっすぐに設置することができた。

<留意事項>

平坦地や直線で設置する場合において、非常に有効である。

<報告者> 所属・氏名 豊後大野市農林整備課：佐藤

事例6（施工方法）：地盤の固いところは、あらかじめ先の尖った鉄棒等で穴を空けてから、支柱を打ち込む。



○防護柵の種類：金網フェンス柵
○柵の大きさ等：H=1200mm

○対象鳥獣：イノシシ・シカ

○改善のきっかけとなった内容
設置（支柱打ち込み）時の省力化
とポール先端部の損傷・変形防止

○改善した内容

地盤の固いところは、先の尖った鉄棒を重機等で打ち込み、あらかじめ支柱が打ち込みやすい穴を作っておく。これにより打ち込みが楽となり、資材の損傷や変形が無くなった。

○改善した結果

労力の軽減が図られた。また、資材の変形がなくなったことから、金網の設置時において支柱先端部の修正をしなくてよくなった。

<留意事項>

鉄棒を抜き取る作業があるので、重機を活用したい。

<報告者> 所属・氏名 国東市林業水産課 長木

事例7（施工方法）：トラクターやチェーンブロックを活用した楽々施工



○防護柵の種類：金網フェンス柵
○柵の大きさ等：H=1900mm

○対象鳥獣：イノシシ・シカ

○改善のきっかけとなった内容
たくさんの人手を掛けて設置してみ
たが、業者が施工するような仕上がり
にならなかったこと。

○改善した内容
トラクターやチェーンブロックで張りながら、順次、金網をポールに留める。

○改善した結果
金網をピンと張る作業を機械で行うことにより、労力が少なくなった。また、仕上がりもきれいにできるようになった。

<留意事項>
トラクターを活用する場合は車両が通行できる場所のみ可能である。また、チェーンブロックを活用する場合は、設置する方向に相対する杭や立木が必要となる。

<報告者> 所属・氏名 中津市農林水産部林政課 中畑 正孝

事例8（施工方法）：農道路肩のコンクリート部の設置により、確実な侵入を防止



○防護柵の種類：ワイヤーメッシュ柵
○柵の大きさ等：H=2,000mm

○対象鳥獣：イノシシ・シカ

○改善のきっかけとなった内容
ドリルによる穴あけは労力を要するが
設置作業が簡単で強度もある。

○改善した内容
コンクリートにドリルで支柱用の穴をあけワイヤーメッシュ柵を設置した。

○改善した結果
農道側からは確実に侵入を防止できる。

<留意事項>
設置に際し、公道であるかどうか、占有関係はどうなのか等確認する。

<報告者> 所属・氏名 津久見市農林水産課 宇都宮哲也

事例 9 (施工方法)：水路部に可動式の柵を設置



○防護柵の種類：金網フェンス
○柵の大きさ等：

○対象鳥獣：イノシシ、シカ

○改善のきっかけとなった内容
水路部から小動物やうり坊（子イノシシ）侵入するのを防ぐため。

○改善した内容
田側の上流部からは水が流れるが、下流部から鳥獣の侵入を防止する片側通行とした。

○改善した結果
小動物やうり坊の侵入が無くなった。

<留意事項>
ビニール袋等のゴミが水路を塞ぐ可能性があるため、大雨等の場合は留意が必要である。

<報告者> 所属・氏名 鳥獣被害対策本部

事例 10 (施工方法)：らせん状の金属製資材を活用し、低コスト門扉を設置



○防護柵の種類：ワイヤーメッシュ
○柵の大きさ等：

○対象鳥獣：イノシシ、シカ

○改善のきっかけとなった内容
門扉はコストを上げる要因となっていること。

○改善した内容
安価ならせん状の金属製資材をドアの蝶番ちようつがいとして活用した。

○改善した結果
低コストで簡易に設置でき、施工期間の短縮、省力化につながった。

<留意事項>
車両系が通る場合、わだちにより扉と地面とに隙間が生じてくるため、やがてくぐり抜けられるようになる。そのため、出入り口部分にコンクリート等で舗装しておくことをお勧めしたい。

<報告者> 所属・氏名 鳥獣被害対策本部

事例11 (補助具) : 手軽に使い易くした支柱打込器で、省力化と設置期間の短縮



○防護柵の種類：ワイヤーメッシュ
○柵の大きさ等：100cm × 200cm
φ 6mm (100mm × 100mm)

○対象鳥獣：イノシシ

○改善のきっかけとなった内容
資材納入業者が貸してくれた鉄筋打込器が大きく重く、筒も太くて使い勝手が悪い。

○改善した内容

直径φ 40mm パイプを 1m に切断、筒内に直径φ 38mm × 30cm の鉄棒を溶接した打込器を手作りした。また、打込みの深さが解るように 30cm ほど着色した。

○改善した結果

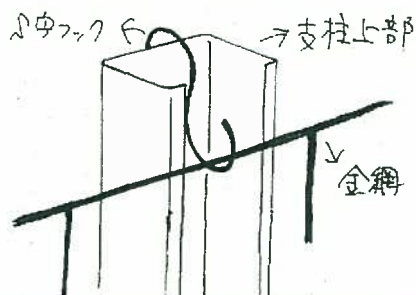
足場が低い時や急斜面等悪条件での設置作業が楽になり、作業効率が向上した。金槌を使用する場合は打ち外しがあるが、この鉄筋打込器は打ち外すことがない。

<留意事項>

円形で片側が重いので、斜面では転がり易く注意が必要。

<報告者> 所属・氏名 湛水エポックサポート 代表 安藤 直行
(大分市鳥獣被害防止対策協議会員)

事例 12 (補助具) : S 字フックの活用で作業の省力化



○防護柵の種類：ワイヤーメッシュ、
亀甲金網の2段式
○柵の大きさ等：H = 2,000mm

○対象鳥獣：イノシシ、シカ

○改善のきっかけとなった内容
設置時の省力化

○改善した内容

S字フックを使い金網柵の保持をする。

○改善した結果

金網柵上部のネジ留めする際は下から柵を支えなければならなかったが、フックの使用によりその手間を省くことが出来た。

<留意事項>

特になし

<報告者> 所属・氏名 佐伯市役所林業課 三宅